45th Anniversary

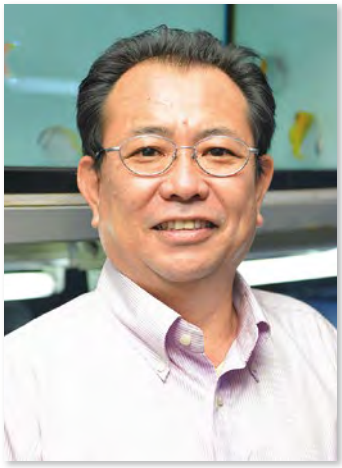
地域とともに
歩んだきずな

高知県立
足摺海洋館
足摺宇和海国立公園・竜串

■ 大水槽を悠然と泳ぐ、シノノメサカタザメたち。　2018.7.16 撮影

目　次

ご挨拶 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 01
歴代館長、スタッフ一同紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 02
みんなの思い出の海洋館 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 03
高知新聞でふり返る「足摺海洋館の歩み」
　建設からオープンまで ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 05
　1976 年～ 1990 年 トピックス ・・・・・・・・・・・・・・ 07
　1991 年～ 1999 年 トピックス ・・・・・・・・・・・・・・ 09
　2000 年～ 2008 年 トピックス ・・・・・・・・・・・・・・ 11
　2009 年～ 2013 年 トピックス ・・・・・・・・・・・・・・ 13
　2014 年～ 2015 年 トピックス ・・・・・・・・・・・・・・ 15
　2016 年～ 2019 年 トピックス ・・・・・・・・・・・・・・ 17
コラム
　シノノメサカタザメの飼育に挑戦 ・・・・・・・・・・・・ 19
　マンボウの長期飼育について ・・・・・・・・・・・・・ 20
主な展示生物一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
入館者の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
足摺海洋館 新館について ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
編集後記 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25



ごあいさつ

足摺海洋館　新野　大

今まで、青森県立浅虫水族館、大阪海遊館の立ち上げに係わらせていただいたが、この足摺海洋館・SATOUMIの立ち上げは、少し様子が違った。どこが違うのか。それは営業中の水族館を運営しながら、すぐ隣に新館を構築するということだ。前出の2つの水族館では、その水族館を新たに無事開館させることに、全精力をつぎ込みスタッフが一丸となって進んだ。しかし今回は、旧館と新館、2つの水族館に携わることになり、最初は少し面喰った。ただ、今のスタッフたちと仕事を進めていくうちに、自信がついてきた。地元の漁師さんをはじめとする、さまざまな方々と良く連携がとれていて、珍しい魚が入れば連絡をくれ、水族館まで持ってきてくださる方もいる。イベントがあれば自ら名乗り出て手伝ってくれ、魚飯やすり身汁、てんぷらなどの地場産品を調理販売してくれる。まさに地域に根付いた水族館だなぁと実感した。「これなら、うまく開館できそうだ！」という思いは、新館開館への後押しをしてくれた。

1975年5月2日に開業した足摺海洋館は「土佐の海と黒潮の魚たち」をテーマとして、45年にわたり目の前に広がる土佐湾の生き物たちを展示し、ピーク時には年間10万人が訪れるなど人気を博してきた。その間の変遷についてはこの冊子に詳しく載っているため割愛するが、マンボウや貴重な大型エイ、シノノメサカタザメの長期飼育に成功するなど、飼育技術も素晴らしい水族館となった。

しかしながら、その老朽化には勝てず開館から40年が経過した2013年の耐震検査では耐震機能が満たされていないという結果となり、本来果たすべき地域観光の核として、生涯教育の場として十分にその機能を果たせないことが判明した。同時に開館当初からしばらく続いた竜串周辺への観光ブームも去り、入館者数も年間5万人程度となって、その存続について、いろいろと意見が交わされた。そして2014年2月に「高知県立足摺海洋館あり方検討委員会」が設置され、その進退について検討された。その間も、水族館は入館者数を減らさないように、さまざまなイベントや工夫を重ねた結果もあり、竜串観光の目玉として新築し2020年7月リニューアルオープンすることが決定したのである。

開館以来、累計で300万人以上のお客様にご来場いただき、土佐湾に住む生き物たちの多様性と素晴らしさ、愛らしさを知っていただいた。その間、多くの方々にご指導、応援、協力をしていただき、お世話になった皆々様方、本当にありがとうございました。そして、足摺海洋館SATOUMIとして生まれ変わる新館も旧館の思いを引き継ぎ、目の前に息づく生き物たちを丁寧に飼育展示し、この地に根差してまいる所存ですので、どうかこれからも皆様のご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。

足摺海洋館スタッフ

【後列左から】
松本史穂　大野由美子　髙橋晃大　田中貴晴　仲林千紗都　門田理恵　茂木みかほ

【前列左から】
浜田澄子　浜田みゆき　新野　大　中島喜久夫　下田敬勇　京谷直喜　山下香代

足摺海洋館・歴代館長

	館長氏名	就任期間
初　代	垣内　有	昭和50年～51年
2　代	宮崎 義晴	昭和52年～53年
3　代	和田　久	昭和54年～56年
4　代	腰山 秀夫	昭和57年～59年
5　代	山崎　巌	昭和60年～平成4年
6　代	松田 時寛	平成 5年～ 9年
7　代	宮地 利顕	平成10年～12年
8　代	坂本 代吉	平成13年～20年
9　代	上野 和子	平成21年
１０代	小南 吉史	平成22年～23年
１１代	西宮 正夫	平成24年～30年
１２代	新野　大	平成31年～現在

みんなの思い出の海洋館

① タイトル　② コメント　③ 写真提供者（敬称略）

① 初めての遠出

② 私は２歳の頃で小さすぎて覚えていないのですが、昭和53年(1978年)10月24日に父と撮った記念写真です。

③ 髙橋知栄（43歳）

① タイムカプセル

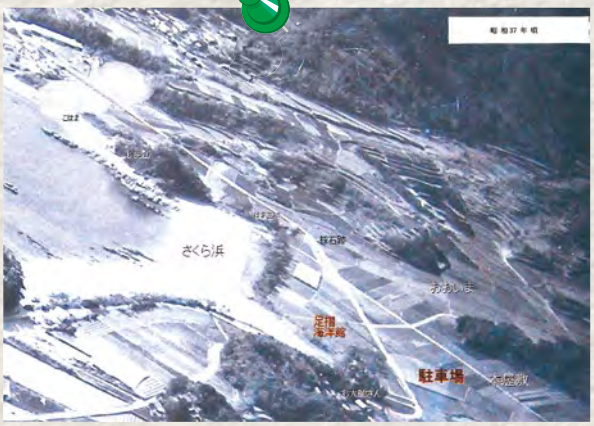
② 昭和61年頃、土佐清水に嫁いで初めて入った水族館。子どもたちの笑顔を思い出す。母となった娘が、今度は孫を連れて新しい水族館で思い出を作るだろう。

③ 門田理恵（63歳）

① さえずり会のみんなとメリークリスマス☆

② 2009年のクリスマスイベントの時に、松尾さえずり会のメンバーと当時の上野館長と一緒に撮った思い出の一枚です。

③ 下田泰子（76歳）



① 海洋館ができる前

② 広大な桜浜が広がる昭和37年頃の写真。中央に見える白い物体はパイナップルのビニールハウスで、ちょうど“ビニールハウス”というものが普及し始めた初期の頃のもの。当時フレームは竹製だった。その後、足摺海洋館がビニールハウスのすぐ西側に建てられた。

③ 西岡定利（70歳）

① お気に入りのスカートで

② 私が7歳の頃のものです。後にも先にも、家族旅行はこの時だけで、初めて見たウツボに長い間見とれていた記憶があります。

③ 川村真由（36歳）

① 緑の中に佇む白亜殿

② 1995.6.16。土佐清水市下益野に航空自衛隊の基地ができた時、当時の区長さんたちがヘリコプターに乗る機会があり、その際に自宅付近を映してほしいと頼んで撮ってもらったもの。撮影者は上田照幸さん。

③ 西岡定利（70歳）

① じいと孫の休日のひととき

② 休日に孫の瞳のかがやきに感動した。
③ 岡村一豊（74歳）

① 大水槽に感動！

② 結婚後、夫と2人で祖母宅に帰省した時に、従兄弟たちと訪れました。リニューアル後には、1歳になった息子を連れて遊びに行けるのが楽しみです。
③ 山下千春（34歳）

① 美しき竜串のシンボル

② 2019.10.23、安岡建氏によってドローン撮影された写真。連なる山々と美しい海の間に、白く異彩を放って建つ海洋館。左横には、建設中の新館が、右横には黒色の竜串ビジターセンターが見える。今後、新たな竜串のシンボルとなり、たくさんの方が訪れることを祈る。
③ 西岡定利（70歳）

① 平ノ段集落と地震

② 約300年前、宝永地震による大津波で三崎地区一帯は甚大な被害を受けた。はじめ平ノ段集落は、“本屋敷”（写真・右下）にあったが、この地震を機に、現在の高台の場所を開墾して移転した。生活用水の確保や稲作農業は大変な苦労があったが、「命を守る」ことを最優先した高台移転で、住民
③ は先祖に感謝している。
西岡定利（70歳）

① 最初で最後の大水槽ウェディング

② 水槽の外は笑顔がいっぱい！
魚の気持ちになれたかも♡
③ あべちゃん（43歳）

1975年 建設～足摺海洋館オープン

1 足摺宇和海国定公園が国立公園に昇格したことや、土佐の観光ブームなどを踏まえ、竜串地域の海洋に関する観光施設（海のギャラリーやグラスボートなど）を含む「海洋学園構想」が策定された。その一環として、観光開発と海洋学習を目的に、県が総事業費７億円をかけて足摺海洋館を建設、1975年５月２日にオープンした。

鉄筋コンクリート造、地下１階地上３階の建物。
写真は、地下１階部分の建設風景で、円筒型の建物は当時珍しかった

鉄筋で地上１階～３階部分を造っているところ

2 当時その斬新な外観はSF的とも言われ、地域のシンボル的存在だった。
「土佐の海と黒潮の魚たち」をテーマに、黒潮を泳ぐ魚類から磯にいる無脊椎動物まで、多種多様な海の生物、約100種5,000匹の飼育展示を行う。
この頃、１階には剥製や潜水具の歴史を、２階には小型水槽を14基設置し、長期飼育の難しいマンボウやシノノメサカタザメの飼育にも力を注いだ。

オープン当初の外観。12,570㎡の敷地内には、ヤシやフェニックス、サンゴ樹など数々の樹木が千本以上も植えられ、南国ムードたっぷりの憩いの場となっていた

チケット売り場。
価格表には、入館料、大人（15歳以上）400円、中・高校生300円、子供（４歳以上）200円と書かれている

足摺海洋館

いよいよ2日オープン

観光の新しい目玉に

見もの、ガラス張りの大水槽

珍魚類や魚類分布などの展示

"海を探る" 部屋

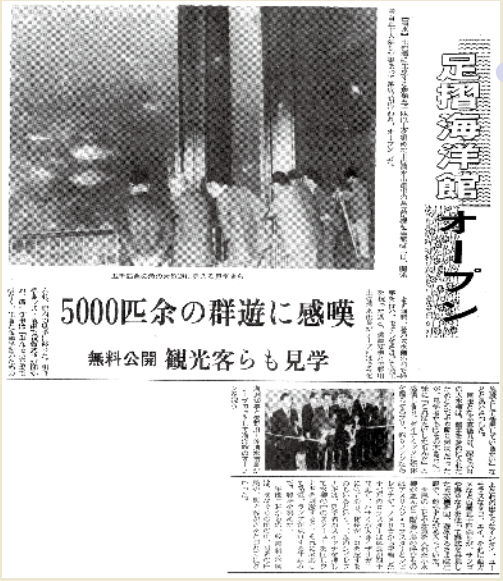
SFムードの『足摺海洋館』

学習設備も盛りだくさん

ガラス張り大水槽

3 いよいよオープン。展示の目玉となる深さ6m、直径9mの大水槽は、当初日本最大級でその中を悠々と泳ぐシノノメサカタザメをはじめ、大型のアジやハタのなかまが観客を喜ばせた

1975年(昭和50年)4月30日



足摺海洋館オープン

5000匹余の群遊に感嘆

無料公開 観光客らも見学

4 1975年５月２日のオープン日は、落成式が行われた後、午後２時から５時まで一般客に無料開放された

1975年(昭和50年)5月3日

大水槽に女性ダイバー

回遊魚にエサ与える

5 オープンして間もなく、大水槽の魚に餌を与える女性ダイバー(当時18歳)が登場。観客の人気を集めた。
１日２回、アジなどの餌を１日１kg与える水中ショーを披露した

1975年(昭和50年)7月30日

6 １F「海を探る」をテーマにした潜水具の歴史の展示室。アレキサンダー大王のころのガラス球から近代の深海調査船などを見学できた

7 ２Fには、アメリカンロブスターをはじめとする世界のエビを展示するとともに、各種エビの壁画が並んだ

1976-1990

昭和51年～平成2年

1977.05.14　窪津漁協の大敷網にかかった超大型のシノノメサカタザメ、餌付け開始 [記事①]
1978.04.28　沖ノ島沖で獲れた生きた化石・テラマチオキナエビスを１個飼育
1978.10.01　新婚カップルを対象に、ツバキ記念植樹サービス開始
1979.03.24　人気者シノノメサカタザメ「ゴン」昇天
1979.04.21　シノノメサカタザメのニューフェース、餌付け中。ダイバーが魚体を抱え、口にメジカ押し込む [記事②]
1979.08.18　雌ザメの愛称は「サチ」に決定。1500 通の応募の中から選出
1980.01.17　日本一を誇る大水槽にも悩み。ひどい魚の共食い
1980.04.16　サメのはく製展示。世界の海から 15 種類 [記事③]
1980.12.27　中型水槽新設。バラエティーに富んだ水族館へ
1981.04.24　大物シノノメサカタザメが 5 ケ月ぶりに登場。足摺の目玉に
1981.05.02　シノノメサカタザメ、餌付けに悪戦苦闘
1981.09.03　シノノメサカタザメの愛称、「サン太」と「ナミ」に決定。2457 通から選ぶ [記事④]
1982.01.08　正月からマンボウが仲間入り。子供らに人気集めるも、飼育難しく職員も懸念
1982.02.06　人気のマンボウ、飼育 1 カ月余で死ぬ
1982.08.06　えさの与え方も勉強　小学生 12 人が体験入館
1983.03.07　25 日から小学生を対象に春休みこども教室開催「魚の名前あてクイズ」「１日飼育係」「ウミガメ体重あてクイズ」を行う
1984.04.17　黄金週間に合わせてクリーム色の外壁に一新
1984.05.18　10 周年で一新。入館券に魚の絵
1984.07.04　竜串親子キャンプ大会。参加者 60 組、200 人を募集
1985.04.22　10 周年を迎え減少傾向続く入館者
1985.04.29　マンボウ１年ぶりに登場。以布利の大敷網に入る
1985.05.06　足摺海洋館 10 周年記念・写生大会開催
1986.04.01　入館者 100 万人達成
1986.12.22　正月休みに向けて水槽のサンゴ取り替え
1988.07.30　「おもしろ自転車」に歓声　ファミリーレクゾーン完成 [記事⑤]
1989.08.04　足摺海洋館でクイズラリー開催
1990.06.17　15 周年記念で、水中写真展の作品募集。足摺宇和海海中公園の魚やサンゴ等を写した写真
1990.12.24　海の生物、手に取り観察　タッチングプール完成 [記事⑥]

足摺海洋館にサメのはく製
世界の海から15種類
学名調べ 夏休み前後に公開へ

1980年（昭和55年）4月16日

[記事③] **サメのはく製 15 種類展示**

「サン太」と「ナミ」
シノノメサカタザメの愛称決まる
足摺海洋館
2457通から選ぶ

1981年（昭和56年）9月3日

[記事④] **シノノメサカタザメの愛称決定**

世界の珍しいサメ15種類18匹のはく製を展示し、子どもたちに大人気だった

ただ今、え付け中
シノノメサカタザメ
「足摺海洋館」のニューフェース
ダイバーが魚体を抱え
口にメジカ押し込む

1979年（昭和54年）4月21日

[記事②] **ダイバーが魚体を抱え、口にメジカ押し込む**

足摺海洋館

"目玉商品"へ期待

超大型のシノノメサカタザメ
え付け作業始まる

○…土佐清水市竜串の足摺海洋館に、百五十キロもある超大型のシノノメサカタザメがお目見えし、十三日から本格的なえ付けを試みている。これまで同海洋館にはスターとなる珍魚が少なかっただけに、関係者は『えづけがうまくいけば…』と、大きな期待をかけている。

○…このサメはさる八日、同市窪津漁協が沖合の大敷網に入ったのを寄贈したもので、体長二・五メートル、重さは百五十キロ。超大物だけにトラックで運び、ヒレも裏側にある。

○…南シナ海に広く分布しており、日本近海でとれるのは珍しく、全国の水族館でもこれほどの大型がいるのは例がないという。性質はいたっておとなしいが、おこし入れ直後は環境が変わったせいもあって、ややときげん斜めだったとか。しかし、二、三日で新しい住み家にもすっかり慣れ、ユーモラスな顔つきで大きそうをゆったりと泳ぎ回っている。

○…ところで問題はえ付け。同海洋館ではこれまでにも一メートルほどの小型ザメを一カ月半ほど飼育したことはあるが、大型ザメやマンボウなどはいずれも全くえさを受け付けず、一週間から十日ほどで相次いで"昇天"さすという苦い経験がある。サメの主食はエビ、カニなどの甲殻類、小魚だそうで、和歌山県の白浜水族館では小型魚のえ付けに成功していることから、関係者もその世話に懸命。

窪津漁協の大敷網にかかる

○…十三日から始まったえ付け作業では飼育係が大水そうに入り、直接ウマヅラハゲを与えているが、まだ食べていないという。関係者は『全国でも例のない超大型魚だけになんとかえ付けを成功させたい』と、祈るような気持ちで作業を見守っている。

（清水）

え付けがうまくいけば館の"目玉"になりそうなシノノメサカタザメ（足摺海洋館で）

[記事①] **超大型のシノノメサカタザメ、餌付け開始**　1977年（昭和52年）5月14日

竜串の岩場を再現したタッチングプール。砂浜、磯、浅瀬の三区画に分かれ、ソメンヤドカリやマツバガイ、ニセクロナマコのほか、小魚など数十種類の海の生物に触ることができた

足摺海洋館

海の生物手に取り観察
タッチングプール完成

海の生物を間近にとらえて観察し、ふれあう設備、いや、浅瀬のひと区画ともいえるタッチングプールが、竜串の岩場を再現した海水槽の前に完成、二三日開館した足摺海洋館（土佐清水市）。ヒトデ、ウニ、ヤドカリ、カニ、ウミウシ、ナマコなどの生きものを手で触れることができる。

海の生物の学習に夢中になる子供たち（土佐清水市竜串・足摺海洋館）

1990年（平成2年）12月24日

[記事⑥] **海の生物、手に取り観察　タッチングプール完成**

ファミリーレクゾーンでは、二人乗り、四輪型などの10種類の「おもしろ自転車」が用意され、入館者は誰でも楽しめた

ユニークな自転車の初乗りを楽しむ子供たち（土佐清水市の足摺海洋館）

『おもしろ自転車』に歓声
ファミリーレクゾーン完成

足摺海洋館

1988年（昭和63年）7月30日

[記事⑤] **ファミリーレクゾーン完成**

1991-1999

平成3年～平成11年

1991.08.08　影絵で魚の名前を当てるクイズなど、ちびっこクイズラリー開催
1991.12.23　貝ノ川の定置網で体長 1.3m、体重 68kg のマンボウ獲れ、当館へお目見え
1992.01.04　正月三が日　入館者 5,299 人
1993.02.21　大方町（現黒潮町大方）馬荷小学校で移動水族館。十数種、100 匹を展示 [記事①]
1994.05.05　マンボウ、飼育記録を更新中。900 日達成か！？ [記事②]
1994.06.12　海のない三原小学校で「移動水族館」が好評
1994.08.05　マンボウ、飼育 1000 日記録目前で死ぬ。3 日夜、衰弱死。貝ノ川の定置網にかかり当館に来てから 971 日
1995.05.19　大月町・一切漁港で、珍しいカイダコ「アオイガイ」捕獲 [記事③]
1995.07.29　シュノーケリング講習「竜串・夏の自然教室」開催
1995.08.20　夏休みの思い出いっぱい、小学生が 1 日飼育係を体験
1996.01.10　改修工事で 1 月 16 日から休館（全館再開は 7 月 20 日。4 月 27 日から 5 月 31 日までは部分開館）[記事④]
1996.07.20　明日、新装オープン。160種、2800匹の魚類飼育
1997.03.05　児童ら魚の飼育体験。目の前の群れに大喜び
1998.01.04　入館者 200 万人突破。愛媛の一家に記念品
1998.04.03　人気者マンボウ 2 匹、3 年ぶりに仲間入り [記事⑤]
1998.12.11　ハナイカ三世誕生。興奮すると赤や黄に変身 [記事⑥]
1999.02.27　土佐清水市竜串で捕獲された 70 センチのコブシメ、飼育開始
1999.05.01　多目的水槽がお目見え。エイやサメなど約 60 匹を飼育
1999.05.21　珍しいアメフラシの仲間・ヤマトメリベを飼育開始
1999.07.18　三崎小学校の子どもたちが水槽のえさやりに挑戦、赤ちゃんイカの放流も
1999.08.18　干潟の生き物 17 種を展示、31 日まで特別展
1999.09.18　シュノーケルで海中の貝を観察
1999.11.10　海洋館職員らがサンゴを移植。竜串海中公園（現・海域公園）[記事⑦]

足摺海洋館
小学校に移動水族館
熱帯魚中心に計画
"移動水族館"に使われる水槽（土佐清水市のレストラン中）

1993年（平成5年）1月22日

[記事①]
小型水槽を小学校に持参し、児童らに魚の生態や飼育方法を説明する「移動水族館」を開始。第一号として、幡多郡大方町の馬荷小で実施

大月町一切で捕獲されたアオイガイ（土佐清水市の足摺海洋館）
珍しいカイダコ捕獲
大月町一切漁港
"本名"アオイガイ
半透明の殻付き
姿はタコそっくり

1995年（平成7年）5月19日

[記事③]
珍しいアオイガイが幡多郡大月町の一切漁港で 9 匹捕獲され、そのうち 6 匹を当館が飼育。環境に馴染めなかったのか惜しくもすべて衰弱死した

人気者マンボウ仲間入り
3年ぶり 足摺海洋館に2匹
約3年ぶりに足摺海洋館に仲間入りしたマンボウ（土佐清水市竜串）

1998年（平成10年）4月3日

[記事⑤]
3 月 24 日、以布利の定置網に入ったマンボウは体長約 70 cm、推定体重 20 kg。25 日に貝ノ川沖で捕獲されたのは約 80 cm、体重 26 kg だった。
愛嬌のある姿に、子どもたちを中心に大人気

土佐清水市の足摺海洋館
改修工事で
16日から休館
内部改修のため16日から休館する県立足摺海洋館。一部展示を模様替えする（土佐市水市竜串）

1996年（平成8年）1月10日

[記事④]
改修工事で 1 月 16 日から休館
（全館再開は 7 月 20 日。4 月 27 日から 5 月 31 日までは部分開館）

飼育記録を更新中

足摺海洋館のマンボウ

土佐清水市竜串の県立足摺海洋館のマンボウが同館の飼育記録を更新中。今月中に九百日に達する。飼育が難しいため担当者は心配の連続だが、当のマンボウはのんびりゆったり。ユーモラスなしぐさですっかり人気が定着している。

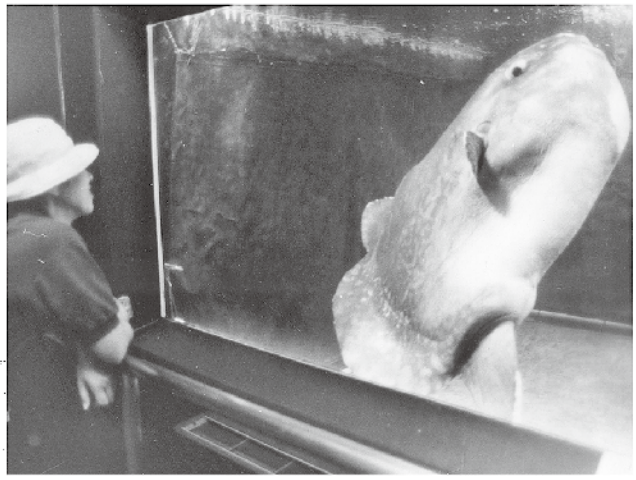
今月中に900日達成

このマンボウは三年十二月、同市貝ノ川の定置網に掛かった。飼育日数はこの一日で八百七十七日。既に同館の記録だった約十カ月を軽く上回っている。

口をぱくぱくさせながら専用水槽の中をふわふわ泳ぐマンボウ。子供たちはもちろん大喜びだが、日ごろ忙しい大人も、のんびりした姿をうらやましそうに眺めている。

本来は広い海をゆったり泳いでいるため水槽での飼育は難しく、「まさか、これほど長く飼育できるとは」と担当の下田敬勇さん(二九)。約一㌔だった体長は一・六㌔に成長。消化不良を起こしやすく、えさの与え方に気を使うそうだ。

ちなみに世界記録は千葉県の鴨川シーワールドにいたマンボウの二千九百九十三日で、まだまだ遠い道のり。下田さんは「まずは千日を目指したい」と意欲を見せている。



飼育記録を更新中のマンボウ（土佐清水市の足摺海洋館）

[記事②] **平成３年12月に、貝ノ川の定置網にかかったマンボウの飼育記録を更新中の時。900 日達成まであと少し。当時マンボウ飼育の世界記録は、千葉県・鴨川シーワールドの 2993 日だった**

1994年(平成6年)5月5日

約100個のテーブルサンゴのかけらを岩のくぼみに移植した（土佐清水市の竜串海中公園）

よみがえれサンゴ

土佐清水市の竜串海中公園で九日、サンゴの激減を食い止めようと、テーブルサンゴの移植が行われた。九割近くのサンゴが死滅したといわれる大碆（おおばえ）付近に足摺海洋館の職員らが潜り、岩のくぼみに大碆や三碕川付近の岸近くでは九割減の個所もある。「緑色のサンゴが死んで白くなり、もろくなって波で砕ける。移植するものも多い」と海洋館の竜串・観光汽船会社を営む竹鼻秀三さんは一台風の大波で割れたり、サンゴを食べるヒメシロレイシガイダマシの被害に遭ったり、それに海の汚染とが複合的に原因となっているのでは ないか」と話す。

海洋館職員らが移植

土佐清水・竜串海中公園

この日は五人が岸から約一㌔の大碆付近で作業を行った。竜串漁協の改革工事に伴って除去されたテーブルサンゴを環境庁の許可を得て移植。船上で二人がサンゴを乗せ、西方ほどのかけらに砕き、三人が水深四㍍からハケまで潜り、岩のくぼみに接着剤を塗り、そこにかけらを差し込んだ。

約百個のかけらを移植したが、定着するかどうか分かるのはおよそ一カ月後。参加者は「なんとか元の海の姿に戻るよう」と祈っていた。

同協会は今年中にあと二回移植作業を行う。

竜串観光振興会（河野実雄会長）の初めての試み。同観光汽船会社を含む竹鼻観光三十社でつくる

1999年(平成11年)11月10日

[記事⑦]
9 割近くのサンゴが死滅したと言われる大碆でサンゴのかけらを移植した

高知新聞

ハナイカ三世誕生

足摺海洋館

興奮すると赤や黄に変身

1000匹ふ化期待

水族館で産まれたハナイカの親（左）とふ化したばかりの三世イカ（中央）。右はふ化直前の卵も（土佐清水市の足摺海洋館）

お母さんの横の僕が見えるかな

―土佐清水市竜串の足摺海洋館で、館で生まれ育ったハナイカから三世が誕生した。赤ちゃんイカは現在一匹だが、さらに透明な卵の中に誕生を待つ三世がめじろ押し。飼育係は「親はまた産卵中で、うまくいけば千匹ぐらい生まれそう」と期待を寄せている。

コウイカ科のハナイカは、親の全長が約五㌢と小型。東京湾以南、台湾までの外洋に面した浅い海にすむ。胴部の二カ所の出っぱりと足二本を使って、海底を器用に歩くことができるユニークなイカ。

最初の三世は八日に誕生し、約一㌢の大きさ。小型水槽で親二匹と赤ちゃんイカ、卵が同居している。ところがこのイカ、普段の体色は周囲に合わせて地味で、特に三世は小さく、よく探さないと見つからない。しかし、興奮すると、赤や黄色と花のように鮮やかに変身するから不思議。

飼育する二世イカの母は土佐清水市以布利沖の“出身”で、大敷網漁の以布利センターが採取。ことし三月二十一日、三匹のうち雌一匹を足摺海洋館が譲り受け、三日後から約二百個の卵を産んだ。

珍しいイカで、昨年は全国四カ所の水族館で飼われていただけ。海洋館では十七年前にも、ハナイカの三世が誕生している。飼育係は「子供のハナイカは生きえが必要で、調達に苦労するが四世、五世と飼育記録を伸ばしたい」と話していた。

1998年(平成10年)12月11日

[記事⑥]
当館で生まれ育ったハナイカから３世が誕生。当時、全国でも４カ所のみの水族館でしか見られなかった。海底を器用に歩くことができるユニークなイカで、お客さんの人気を集めていた

ハナイカのふ化寸前の卵。産卵後、約一ヶ月でふ化する。当館では、ハナイカ３世を何度か誕生させていて、飼育にも力を入れてきた

ふ化直後のハナイカ。大きさは１ｃｍ未満で極小。イサザアミなどの生き餌をよく食べて育つ

2000-2008

平成12年～平成20年

2000.01.21　待望！7カ月ぶりにマンボウ展示
2000.03.20　まるで岩！全長50cmの巨大コブセミエビ
2000.04.22　餌をやってみよう　飼育体験教室
2000.11.09　珍種ドングリウニ展示　宝石サンゴ漁中に水深約100mから採取　飼育ケースは初めて？
2000.12.25　頭はエイで体はサメ！？ 体長2.1m、体重100kgのシノノメサカタザメが仲間入り
2001.05.07　GW、土佐路　雨にたたられ、屋内施設に人気集中
2001.07.06　「奄美以南」生息の二枚貝　ヒレシャコガイを土佐清水沖で発見
2001.07.17　足摺海洋館で初の防災訓練を実施
2001.09.06　西南豪雨　土佐清水市付近で110mmを越える激しい雨
2001.08.07　毒を持つ海の生物10種30点　特別展開催
2001.09.17　足摺海洋館222万2222人達成　豪雨被災地に明るい話題届け
2001.10.02　高知西南豪雨　泥が竜串観光痛打 [記事①]
2001.10.07　四万十の魚楽しんで　特別展開催
2002.03.09　特大オオウナギ発見　土佐清水市　体長1.4m胴回り45ｃｍ、重さ12.6ｋｇ　県新記録 [記事②]
2002.08.21　寒流の魚お目見え　足摺海洋館で特別展
2002.12.19　夜の水族館　21日から開館
2003.05.13　小型クジラの死がい漂着　コマッコウか
2003.08.02　タツノオトシゴ展31日まで開催、8種のタツノオトシゴなかまを展示
2004.01.01　ゆらりマンボウ　４カ月ぶりに登場　以布利沖の大敷き網にかかった体長約70ｃｍの個体
2004.01.07　1月12日は新成人無料
2004.01.13　1.3mのオオウナギ　河川工事関係者が捕獲
2004.05.19　捕獲まれな軟体動物　ヤマトメリベ　ふわふわ60ｃｍの大型を展示
2004.06.01　シノノメサカタザメ２年ぶりに登場　体長2.1m泳ぐ姿は圧巻
2004.08.13　クラゲふわふわ　７種50匹　今月末まで展示
2004.12.26　相次いだ台風の影響で高知県観光客10万人減
2005.01.22　“流氷の妖精” ふわふわクリオネ展示
2005.04.22　30周年を迎える足摺海洋館　入館者減少、進む老朽化　建て替え望むも財政難 [記事③]
2005.05.02　海洋館30周年イベント開催
2005.07.12　アスベスト一部使用で足摺海洋館 調査休館 書き入れ時大きな痛手 地元関係者「一日も早く」 [記事④]
2006.04.30　29日再オープン　5カ月ぶり歓声戻る [記事⑤]
2006.05.03　水族館に落ち武者？　実はエイの一種 [記事⑥]
2006.07.28　クマノミ14種　来月末まで展示
2007.08.18　『高知県議会』産経委　海洋館に指定管理者検討　本年度中に存廃方向性
2007.11.04　見残し海岸で、無料ツアー開催
2008.04.03　経営改善策で児童、高齢者も有料に
2008.04.18　「竜串にカモーン」　地元児童が観光マップを作製
2008.04.20　華やかな魚11種　花の名が付いた魚50匹展示
2008.06.13　「足摺の海」ライブ配信　県立海洋館がHP一新
2008.07.04　もうすぐ七夕　園児が海洋館を飾り付け [記事⑦]
2008.08.13　年間パス購入特典 大水槽で餌やりが好評 [記事⑧]
2008.08.15　よく見ると愛らしい！？ 31日までナマコ展
2008.12.23　幻想的「夜の水族館」　25日まで
2008.12.31　来年の顔です！？　色鮮やか　ウミウシ30種

足摺海洋館

年間パスで餌やりしよう

購入特典が好評

直径9メートル、850匹の大水槽

【清水】魚に餌をやってみませんか――。土佐清水市三崎の県立足摺海洋館が、年間パスポート購入者を対象に大水槽の餌やり体験をスタート。普段は入ることのできない水槽の真上から見学するサービスで、「ひと味違った魚の魅力が楽しめる」と好評だ。同館は「年間パスを購入して、何回でも遊びに来て」と呼び掛けている。（加治屋隆文）

同館は年間約三千五百万―四千万円の県費負担で運営しており、経営改善の一環で四月から、入場無料だった県内在住の六十五歳以上の高齢者と十八歳未満の児童生徒を有料化した。

併せて購入日から一年間有効の年間パスポートを発売。七月末までに児童生徒（五百円）百八十九枚、大人（一千円）五百八十九枚が売れている。

ただ、これまでは繰り返し入場できるだけで特典がなかった。このため、パスポートの魅力を高めようと七月から、新たに餌やり体験を導入した。

直径九㍍、高さ六㍍の大水槽で飼育されている体長一㍍を超すクエやスギ、ロウニンアジなど約五十種、約八百五十匹の魚が対象。水槽の真上から、小アジやキビナゴなど約十㌔を投げ入れる。

訪れた子どもらは、餌を求めて魚群が水面へと急浮上してくるさまに歓声を上げ、目を丸くしたり喜んだり。

同一時四十分までの予約が必要で、定員は二十人。パスポート購入者とその家族全員が参加できる。

年間パスポート購入者を対象に大水槽の餌やり体験を始めた県立足摺海洋館（土佐清水市三崎）

これほど生き物を身近に感じられる経験はめったにできない」と満足していた。

餌やり体験は偶数日の午後一時から。当日三歳の子ども参加した同市内の女性（三四）は「海が近くにあっても、これほど生き物を身近に感じられる経験はめったにできない」と満足していた。

[記事⑧]

年間パスポート購入者を対象に、大水槽の餌やり体験をスタート。普段は入ることのできない水槽の真上から、クエやロウニンアジなどの大型魚が泳ぐ水槽に小アジなどの餌を投げ入れることができる。お客さんにはめったにできない体験と好評

2008年（平成20年）8月13日

足摺海洋館 30周年迎える

入館者減少、進む老朽化

建て替え望むも財政難

[記事③]

2005年5月2日で開業30年。約200種3000匹の生きものが観光客らを楽しませてきたが、近年は入館者の減少傾向が続いている。また施設の老朽化が著しく、大掛かりな改修や建て替えを望む声も。30周年の節目で存廃問題も含めた検討に迫られた

2005年（平成17年）4月22日

地域ワイド

特大オオウナギ発見

土佐清水市

体長1.4㍍ 胴回り45㌢ 重さ12.6㌔

「こりゃあ太い」県新記録

[記事②]

土佐清水市下益野の益野川で発見された オオウナギ。体長 1.4m、重さ 12.6ｋｇの県内新記録となる大物で、当館に保護された。土佐清水では、河川工事の際になどに、時々発見されている

2002年（平成14年）3月9日

5カ月ぶりに開館した海洋館で魚の観察を楽しむ人々（土佐清水市竜串）

足摺海洋館再オープン

5カ月ぶり歓声戻る

【清水】アスベスト（石綿）除去工事などのため休館していた土佐清水市竜串の県立足摺海洋館（坂本代吉館長）が二十九日、営業を再開。約三千匹の魚などを展示した館内に、五カ月ぶりに子どもらの歓声が響いた。

海洋館は三階にある餌やり場の天井約五百平方㍍にアスベストが吹き付けられていることが分かり、昨年十一月から休館して除去工事を行った。工事自体は今年一月末に完了したが、地下一階のコンクリートに多数のひび割れが見つかり、安全性調査のため引き続き休館していた。

この日は大型連休の初日とあって、県内外から多数の家族連れらが来館。愛媛県新居浜市から来た三十代の男性は「親子で魚を見るのが好きなので、隣の『海底館』とセットで見に来ました。魚の種類は多いし、ナマコに直接触れることもできて子どもは大喜びです」と話していた。

海洋館側は「五カ月間の休館は痛手だったが、安全性も確認できた。高校生以下は無料なので、これまで以上に多く方に足を運んでもらいたい」としている。

[記事⑤]

3階・餌やり場の天井約500㎡にアスベスト（石綿）が吹き付けられていることがわかり、2005年11月から休館して除去工事を行った。工事自体は2006年1月に完了するも、地下１階のコンクリートにひび割れが多数見つかり、調査のため休館していた。大型連休の初日に再オープンし、子どもらの歓声が響いた

2006年（平成18年）4月30日

もうすぐ七夕 各地でイベント

足摺海洋館で園児飾り付け

土佐清水市

保育園児が願いを込めた短冊を結び付けた（土佐清水市の県立足摺海洋館）

【清水】土佐清水市三崎の県立足摺海洋館でこのほど、地元の保育園児が七夕飾りを作った。鹿児島県奄美諸島以南に生息する熱帯魚「シモフリタナバタウオ」五匹も展示している。八日まで。

三崎、下川口両保育園の園児三十二人。色鮮やかな短冊に「けいさつのおんちゃんになりたい」など、ほのぼのした夢や希望を書いた。同市内の身体障害者療護施設「太陽の家」の入所者が飾り付けた一本も含め、計五本のササが玄関に展示された。

また、黒地の体に真っ白な斑点が映えるシモフリタナバタウオは、水槽の中を優雅に泳いでおり入場者の目を引いている。

[記事⑦]

三崎保育園と下川口保育園の園児32人が七夕飾りを制作し、玄関に展示。園児に七夕飾りを付けてもらったのは、この時が初めて

2008年（平成20年）7月4日

水族館に落ち武者？

実はエイの一種

足摺海洋館が飼育

大水槽を泳ぐシノノメサカタザメ。無念の形相にも見える（写真はいずれも土佐清水市竜串の足摺海洋館）

横から見たシノノメサカタザメ

【清水】水族館に落ち武者――。土佐清水市竜串の足摺海洋館のほぞ、ユーモラスな「シノノメサカタザメ」が仲間入りした。上から見ると、頭部はエイで胴はサメのような姿。

シノノメサカタザメはサカタザメ科のエイ。胴体は扁平で、目に鼻孔が開いて小さな口がある。「ヘ」の字形の穴はりょうが目。くねくねした長い触角を生やしたかたくなに胴部に巻き付いている。

シノノメサカタザメのエイ、胴はサメのような姿。

四つ足と尾の端で、一見、海洋館では開館初日から最後の一匹になった。

シノノメサカタザメを展示するこの水槽は、幅三メートル、奥行き一メートル、深さ一・五メートルの大きさ。

最後の一匹が死んでから十六年十月に食べようとした魚、さらし海しょうなどを与えたが、ほとんど食べず、敵の海しょうすらも食べない状態。

四月二十日、開館以前、胴体の大部分を噛む種類が確認された。

四月二十日、開館以前、胴体の大部分を噛む種類が確認された。

[記事⑥]

頭部はエイで、胴はサメのようなユーモラスな姿をしたシノノメサカタザメ。腹側を見ると、ちょんまげを切り落とされた落ち武者のような“無念の形相”に見えてくる

2006年（平成18年）5月3日

一部アスベスト使用 足摺海洋館休館

書き入れ時 大きな痛手

来月中の再開は困難か

地元関係者「一日も早く」

石綿が吹き付けられた県立足摺海洋館の天井（土佐清水市竜串）

[記事④]

開館30年となる節目の年に、アスベスト問題で休館を強いられた当館。夏場の書き入れ時だけに、痛手は大きい。昨年度は、８月は年間来場者のほぼ３割に当たる約15,000人が入館した。竜串観光の大きな柱となっているため、地元関係者は一日も早い再開を望んだ

2005年（平成17年）7月13日

泥が竜串観光痛打

海底館売り上げ5%減

高知西南豪雨

泥で濁り、流木が漂う足摺海底館周辺の海（１日、土佐清水市三崎）

見えないグラスボート

海洋館も入場者減

[記事①]

高知西南豪雨で足摺宇和海国立公園の海に大量の泥が流入。特にサンゴと透明度が売り物の竜串近辺の海は9月６日の豪雨以来、濁りが収まらず、足摺海底館では、売り上げが前年比で25%減。隣の足摺海洋館も9月の入館者は2501人で約５%減だった

2001年（平成13年）10月2日

2009-2013

平成21年～平成25年

2009.01.15　大岐の浜にシワハイルカの死がい漂着　国内で１，２頭のみ
2009.04.04　ピカチュウも登場？ ウミウシ展第二弾スタート　30種類を展示
2009.07.18　魅力発信へ初の試みとして夜の水族館「ロマンチック」　児童招き宿泊研修 [記事①]
2009.08.05　魅力発信へ企画 ”大水槽でダイビングを”　今月土日限定　餌やりで "竜宮城"　体験 [記事②]
2009.09.22　きもかわいい!? 12種類のヒトデ 27日まで特別展
2009.10.31　マンボウ愛らしく ２日間キャンドルで復活 [記事③]
2009.11.10　天皇即位20年　７施設を無料開放
2009.11.15　水族館を "たんけん"！ 土佐清水市３小の27人　海洋館で餌やり
2009.12.21　リョウマエビ　足摺海洋館に　地元で捕獲　23日にお披露目 [記事④]
2010.01.13　マンボウに愛称付けて　入館者対象に募集
2010.02.16　衰退続く竜串海中公園　施設の集客減深刻化「横の連携」強化を
2010.03.18　地域おこしを考えるマンボウサミット　21日
2010.03.25　つぶらな瞳で　コンニチハ　ゴマフアザラシ仲間入り　北海道から27日　”移籍” [記事⑤]
2010.07.21　高知の生き物　連携し紹介　明日から県内動物園、水族館
2010.07.29　高知－須崎東　無料化1カ月　高速交通量増えたけど…　県西部観光「効果なし」
2010.09.17　足摺海洋館35周年　明日からイベント　満35歳とその同伴家族は入館無料
2010.10.20　足摺海洋館マーク募集　締め切り来月末　採用者に10万円
2010.12.10　2頭目アザラシ仲間入り　名付け親になって
2010.12.24　マンボウあしらったシンボルマーク決定 [記事⑥]
2011.02.12　今日明日奇岩フェス　無料みそ汁　観光体験も　鮮魚や干物　幡多の特産品販売
2011.03.08　雄はゴマ、雌はモモ　アザラシの愛称決定
2011.12.22　今日から「夜の水族館」開催
2011.12.24　竜串で２人の絆深めて　明日から土佐清水市カップル応援企画　30組を無料体験招待
2012.03.22　25日からアザラシの写生画展を開催
2012.04.21　夢に出てきそう？　神戸市の修学旅行生　足摺海洋館で宿泊 [記事⑦]
2012.06.29　子どもとお年寄り　仲良く七夕飾り
2013.03.20　『高知県議会』 足摺海洋館　存廃含め検討　執行部方針　13年度の耐震診断後に
2013.07.13　後川中生19人が「夜の水族館」満喫
2013.08.09　1泊2日の親子自然教室の参加者募集
2013.08.18　写生コンテストの作品募集
2013.08.20　サメの歯でアクセサリー　足摺海洋館が教室 [記事⑧]
2013.12.20　21～23日　土佐清水で「はたきらり」　ライトアップや演奏会

足摺海洋館

夜の水族館「ロマンチック」

児童招き宿泊研修 魅力発信へ初の試み

夜の水族館を散策する三崎小児童ら（土佐清水市三崎の県立足摺海洋館）

【清水】土佐清水市三崎の県立足摺海洋館が16、17の両日、地元の三崎小学校児童を招いて1泊2日の宿泊研修を行った。同館が「ぜひ、ご利用ください」と提案した初の試み。児童は大水槽を囲むように寝具を並べ、魚の群れを眺めながら「おやすみなさい。」水族館で寝泊まりという貴重な体験は「迫力満点。楽しかった」と好評だった。

敷地が広い同館は、施設裏に海水浴場「竜串桜浜」があり、夏のレジャーを楽しむには絶好のロケーション。以前から宿泊プランを練っており、今回三崎小5、6年生20人を招待して水族館の宿泊が実現した。

初日、児童はシーカヤックや海上散策。夕飯は協力し合って飯ごう炊さん、流しそうめんも楽しんだ。キャンプファイアーで盛り上がった後は、女の子たちが「ロマンチック」と待ち望んだ水族館の”探検”。薄暗い館内を飼育員の説明を受けながら見て回った。

寝床は寝袋9人、高さ6㍍の大水槽周り。2㍍近いジノメサカタザメや1㍍を超すエイやスギなどを眺めながら眠りについた。6年の兼松柏果さんは「暗がりの中、群れた魚の目がきょろっとして少し怖かったけど、楽しかった」と大喜び。

上野利一館長は「楽んでもらえることが分かった。今後、研修の機会を検討して、竜串全体の魅力アップに貢献していきたい」と主催えを感じていた。

[記事①]

地元の三崎小学校の児童を招いて、１泊２日の宿泊研修を行った。当館初の試み。児童は大水槽の周りに寝具を並べ、魚の群れを眺めながら眠りについた。水族館で寝泊まりという体験は迫力満点、と好評だった

2009年（平成21年）7月18日

マンボウ 愛らしく

きょう、あす 足摺海洋館 キャンドルで”復活”

【清水】土佐清水市三崎の県立足摺海洋館で、31日と11月1日の午後6～8時までの間、玄関前に約1500個のろうそくを点灯する「マンボウキャンドル」が行われる。

きっかけは今年8月、同館で飼育していた2匹のマンボウが相次いで死んだこと。同館の人気者で死んだ後も入館者から「居なくなったの？」「寂しい」などの声が寄せられた。

マンボウは大敷き網漁に入ったものを搬入しているが、冬季に集中しており、「早く海洋館に帰ってきてほしい」との思いを込め企画した。

最大の作品は縦10㍍、横8㍍ほどのマンボウ。約300個のキャンドルで細部も表現。すぐ後ろには子どものマンボウも愛らしく泛生を”泳いでいる”。そのほかタツノオトシゴやカニ、ウミガメなど約10体も表現する。

両日は午後5時に閉館後、キャンドルに合わせ6時に再び開館する。午後6時半から館内で琴の演奏も。問い合わせ先は同館（0880・85・0635）。

約1500個のキャンドルでマンボウなどを表現した（土佐清水市の県立足摺海洋館）

[記事③]

10月31日と11月1日の午後６～８時、玄関前に約 1,500 個のろうそくを点灯する「マンボウキャンドル」が行われた。きっかけは、この年の 8 月、当館で飼育していた 2 匹のマンボウが相次いで死んだこと。「早く海洋館に帰ってきてほしい」との思いを込め企画した

2009年（平成21年）10月31日

リョウマエビ 足摺海洋館に

地元で捕獲 23日お披露目

23～27日に 夜の水族館

23日からお披露目されるリョウマエビ（土佐清水市三崎の県立足摺海洋館）

[記事④]

NKH 大河ドラマ「龍馬伝」の放送を前に、坂本龍馬の名を冠する「リョウマエビ」が、当館で 23 日に披露された。日本固有の希少種で、1955 年、土佐湾で最初に確認されたことから、この名が付いた。足摺岬沖の海底約 130m、サンゴ網漁の網にかかったもの

2009年（平成21年）12月21日

採用されたシンボルマーク

マンボウあしらった シンボルマーク決定

県立足摺海洋館が開館35周年を記念して公募していたシンボルマークが23日までに、フリーデザイナーの高見澤アカネさん(39)＝さいたま市＝の作品に決まった。

応募総数は計262点で、同館職員や県担当者が選考。

高見澤さんの作品は、同館の人気者マンボウを描いたもので、背景は海をイメージした青色。マンボウを横にしてみると、「アクアリウム」の頭文字「A」が見て取れる。

小南吉史館長は「分かりやすいデザインになった。多くの人に知ってもらえればうれしい」と話している。

[記事⑥]

35周年を記念して公募していたシンボルマークが決定。応募総数は262点で、同館職員や県担当者が選考した。当館の人気者マンボウを描いたもので、背景は海をイメージした青色

2010年(平成22年)12月24日

大水槽でダイビングを

足摺海洋館

魅力発信へ企画

【清水】土佐清水市三崎の県立足摺海洋館（上野和子館長）が、8月の土、日曜日限定の新企画として、大水槽内でダイビングを楽しむ「I dive 海洋」を始めた。同館は「〝竜宮城〟を散策しませんか」と呼び掛けている。

今月土日限定 餌やりで〝竜宮城〟体験

「大水槽に潜ってみたい」といった入館者の声に応え、新たな館の魅力を発信しようと企画。対象はダイビングのライセンス取得者で、飼育員と共に餌やりなどを体験する。

大水槽は直径9㍍、高さ6㍍。体長約2㍍のシノノメサカタザメなど約50種、600匹が飼育されている。クエ、ロウニンアジなど1㍍を超える大型の魚や群生するイサギ、ナポレオンフィッシュの愛称で知られるメガネモチノウオ、10㌢ほどの愛らしいコガネススメダイなど多彩な魚種が楽しめる。

飼育員によると、水槽内の魚は人影に気付くとすぐ、餌と直感して動きが活発になる。中でも真っ先に反応するのがシノノメサカタザメ。鼻先のように見える吻（ふん）近くに餌を与えるが、巨体を加速させて近寄ってくるという。

「怖いと思うかもしれないが迫力満点。慌てず落ち着いてやれば大丈夫。ぜひ挑戦を」と飼育員。また、餌を詰めた瓶を水中で散らすとイサギやカンパチ、ツバメウオなどが乱舞する。前が見えないほど取り囲まれ、魚の渦巻きの中にいる感じ」を体験できるという。

上野館長は「まさに魚と触れ合える飼育体験。写真撮影もできるので遊びに来て」とPRしている。

土、日曜日の午前10時と午後3時から、それぞれ約30分。1回2人までで、前日までの予約が必要。ダイブ料金は3千円だが、ほかに年間パスポート（1千円）購入も条件。問い合わせ先は同館（0880・85・0635）。

大水槽でシノノメサカタザメに餌を与える飼育員
（土佐清水市の県立足摺海洋館）

[記事②] **「大水槽に潜ってみたい」という入館者の声に応え、8月の土、日曜日限定の新企画として、大水槽でダイビングを楽しむ「I dive 海洋」を開催。ダイビングのライセンス取得者は、飼育員とともに餌やりなどを楽しんだ**

2009年(平成21年)8月5日

夢に魚出てきそう?

神戸市の修学旅行生 足摺海洋館で宿泊

大水槽前に寝袋を並べて寝る生徒たち
（土佐清水市三崎）

【清水】修学旅行で、袋にくるまり、夜の海来高した神戸市の中学生8人が19日、当館に宿泊。大水槽の前で寝袋にくるまり、夜の海中の気分を味わった。県外の生徒の宿泊はこれが初めてで、幡多広域観光協議会が企画したもの。夜の館内を見学してから、魚の群れを見ながら眠りについた。

土佐清水市三崎の県立足摺海洋館（上野和子館長）が、8月の土、日曜日限定の新企画として、大水槽内でダイビングを楽しむ「I dive 海洋」を始めた。同館は「〝竜宮城〟を散策しませんか」と呼び掛けている。

[記事⑦]

修学旅行で来高した神戸市の中学生 8 人が 19 日に、当館に宿泊。大水槽の前で寝袋にくるまり、夜の海中気分を味わった。県外の生徒の宿泊はこれが初めてで、幡多広域観光協議会が企画したもの。夜の館内を見学してから、魚の群れを見ながら眠りについた

2012年(平成24年)4月21日

つぶらな瞳で コンニチハ

足摺海洋館

ゴマフアザラシ仲間入り

北海道から27日〝移籍〟

【清水】土佐清水市三崎の県立足摺海洋館に、つぶらな瞳の「大型ダイドル」が仲間入りする。すらりと伸びるひげも愛らしいゴマフアザラシだ。27日に北海道稚内市の水族館から「移籍」予定で、同館も「お披露目できる日が待ち遠しい」と受け入れ準備を整えている。（知花隆文）

5月に開館35周年を迎える同館は2009年度、国から取水工事や水槽の増設、ダッチングプールの改修などを実施。現今意で「新たな生き物を飼育して海洋館のさらなる魅力を発信しよう」と話が持ち上がった。

眠られない事で無愛想の見込めるアイドルとして、候補に挙がったのは、ペンギンやカワウソなど。最終的にゴマちゃんの愛称で親しまれて人気もあり、比較的飼育しやすいとの理由でゴマフアザラシに決定した。

飼育している水族館を探した結果、「稚内市立ノシャップ寒流水族館」から譲り受けることに。25日に1歳になる雄の子どもで、体長約1㍍、体重約40キロ。秋には雌1頭も迎えるという。

飼育、展示場所は海洋館入口近くにある多目的水槽を改修し対応。27日夜明けに到着予定で、体調が良ければ同日から一般公開する。

上野和子館長は「待望の大型新入。シノノメサカタザメ、マンボウと合わせて人気者トリオを一緒にしたい。多くの人に見に来てもらいたい」と期待している。

県立足摺海洋館に仲間入りするゴマフアザラシ（稚内市立ノシャップ寒流水族館）

[記事⑤]

「新たな生き物を飼育して海洋館のさらなる魅力を発信しよう」ということで、「ゴマちゃん」の愛称で親しまれ、比較的飼育しやすいゴマフアザラシに決定。飼育している水族館を探し、「稚内市立ノシャップ寒流水族館」から譲り受けることに。25 日に 1 歳になる雄の子どもで、体長 1m、体重 40ｋｇの個体、当館入り口付近の多目的水槽に展示された

2010年(平成22年)3月25日

サメの歯でアクセサリー

足摺海洋館が教室

サメの歯を使ったアクセサリー教室
（土佐清水市三崎の足摺海洋館）

【清水】サメの歯でアクセサリーを作る教室が18日、土佐清水市三崎の県立足摺海洋館で開かれ、子どもらがオリジナルのペンダントやキーホルダーの制作に挑戦した。

同市近海では、立て縄漁のサバを食い荒らすサメを漁業者が駆除。その有効活用を目的に、2009年から同館が毎夏開催している。

親子ら約30人が参加し、ますほ型やハートの形の製氷皿に水あめ状の樹脂を投入。長さ1㌢程度の鋭い歯を思い思いにちりばめ、さらに樹脂を流し込み乾燥させた。固まった直径約2㌢の塊に、ひもを通す穴を開けて完成。

また会場には約50㌢のシュモクザメとネコザメの標本も展示。子どもたちは恐る恐る触れ「さらさらや」と確かめたり、クイズでサメ知識を深めていた。

家族ら7人と幡多郡大月町から参加した大月小6年、宮崎海斗君（11）は「きれいな仕上がりで満足。ランドセルに付けたい」と笑顔を見せていた。

[記事⑧]

土佐清水市近海では、立て縄漁のサバを食い荒らすサメを漁業者が駆除している。その有効活用を目的に「サメの歯でアクセサリー作り」を企画。2009 年から当館が毎夏開催している。星やハート型の製氷皿に樹脂を流し込み、サメの歯を入れて固めるもので子どもたちも大喜び

2013年(平成25年)8月20日

2014-2015

平成26年～平成27年

2014.02.21　足摺海洋館の存廃検討開始　県や土佐清水市、観光業者ら参加　7月中旬に報告書 [記事①]
2014.04.17　特色ある水族館に　足摺海洋館　2回目検討委
2014.04.28　ヒトデの企画展「ひとでのなかまたち」を開催
2014.07.25　足摺海洋館「建て替えを」　検討委が意見集約
2014.08.07　磯の生き物 30 種紹介　海洋館で企画展開催
2014.08.26　『支社局からの報告』　新足摺海洋館とは　建て替え赤字体質課題　運営、展示、急がれる議論集約
2014.10.13　台風直撃に県内戦々恐々　観光施設　次々休業
2014.10.26　交雑種ウミガメ展示　「環境問題考えて」[記事②]
2014.10.31　60cm 3.78kg 超特大！ニシキエビが登場 [記事③]
2014.11.19　土佐清水に巨大ダンゴムシ！？深海生物ダイオウグソクムシ　四国初公開へ [記事④]
2015.01.06　年末年始、県内人出鈍る。寒波影響？半減施設も
2015.02.13　足摺海洋館　建て替えへ　基本計画検討委　移転含め協議継続
2015.03.27　『見たり聞いたり』ヤシにサクラ咲く　土佐清水市
2015.05.01　足摺海洋館の集客低迷。昨年の入館者はピークの 10 分の 1。7 年連続最低
2015.05.02　鮮やかウミウシ 20 種を展示　企画展開催
2015.05.03　足摺海洋館 GW 盛況 40 周年で式典　期間中イベント多彩 [記事⑤]
2015.05.10　新海洋館は現敷地に　基本計画検討委が方針
2015.06.01　修学旅行で幡多満喫　神戸の中３生　足摺海洋館で宿泊も
2015.06.25　大水槽に土佐清水の魚　足摺海洋館改修へ基本案
2015.07.04　足摺海洋館に園児ら七夕飾り [記事⑥]
2015.07.28　夏本番　祭り活況　夜の水族館に縁日を開催
2015.09.05　魚の餌やり体験人気　年間パス何度でも [記事⑦]
2015.12.27　夜の水族館　楽しんで　今日まで

足摺海洋館に園児ら七夕飾り

土佐清水市

【清水】七夕ムードを盛り上げようと、土佐清水市三崎の県立足摺海洋館で2日、市内の保育園児らが水槽前に立てたササに短冊や紙で作った人形などを飾り付けた。

地元の保育園や幼稚園の園児、特別養護老人ホームの利用者ら約150人が参加。園児たちは「ケーキ屋さんになりたい」「まほうつかいになりたい」など、将来の夢を書いた短冊を見せ合った。

高齢者は「みんな元気で」「世界平和」などの願いをしたため、水槽前に用意された9本のササに全員でくくりつけた。子どもたちは「来年も元気でね」とお年寄りに声を掛け、最後に「たなばたさま」を合唱した。七夕飾りは12日まで館内に展示される。（富尾和方）

ササに願い事の短冊を飾る園児ら（土佐清水市の県立足摺海洋館）

[記事⑥] **土佐清水市内の保育園児らが水槽前に建てたササに短冊や紙で作った人形などを飾り付けた。園児たちは「ケーキ屋さんになりたい」「まほうつかいになりたい」などの夢を書いた短冊を見せ合った**

2015年（平成27年）7月4日

足摺海洋館の存廃検討開始

県や土佐清水市観光業者ら参加　7月中旬に報告書

【清水】土佐清水市三崎の県立足摺海洋館の老朽化・経営問題で、県は30日、存廃を含めた当館の在り方を考える検討委員会を設置した。同市の足摺岬光協市長や観光業、教育関係者ら委員9人が出席した。同市で初の会合。同日、同市で初の会合を開き、現地視察なども踏まえ、検討結果を7月中旬に取りまとめ、県に報告する方針を確認した。

事務局の県が、毎年度の入館者数が四万千五百人程度。ピーク時に年間約10万人にとどまった入館者数は近年、5万人を下回り、赤字経営が続いている。昨年の海洋館は6・75億円の赤字。ピーク時には約1億円の黒字を記録していた。

県の耐震診断では、本館の鉄骨部分が耐震基準を満たしておらず、耐震補強に約3億円を要することもあった。

同市三崎のレストラン東で開いた初会合で、県が10人に委嘱を委嘱した「検討委員会」（宮崎市の宮崎大、検討結果なども踏まえ、検討結果を7月中旬に取りまとめ、県に報告する方針を確認した。

事務局の県が、毎年度の入館者数が四万千五百人程度。ピーク時に年間約10万人にとどまった入館者数は近年、5万人を下回り、赤字経営が続いている。昨年の

核となる施設として存続してほしい」「変化やイベントをアピールしなければ水族館だけでは集客が難しい」などと意見を交わした。（富尾和方）

「県立足摺海洋館あり方検討委員会」の初会合（土佐清水市三崎のレストラン東）

[記事①] **2014 年2月 20 日、存廃を含めた当館の在り方を考える「あり方検討委員会」が設置される。1975 年開館の当館は耐震基準を満たしておらず、入館者も低迷。その後協議が重ねられ、当館を存続させ、施設を改修する方針が決まった**

2014年（平成26年）2月21日

60センチ 3.78キロ 超特大！ニシキエビ

足摺海洋館に登場

急きょ単独の水槽用意

土佐清水市

○…こりゃ太い!! 土佐清水市三崎の県立足摺海洋館にこのほど超特大のエビが持ち込まれた。

○…同市浜益野の吉野彰人さん(65)が、200メートルに出回るクラスの約6倍というビッグサイズだ。

○…ジョロウグモのようなしま模様の足に、紫がかった甲が独特の雰囲気。市場ではイセエビの半値程度にしかならないため、吉野さんは「食べられるより、たくさんの人に見てもらえる方がいい」と館に持参した。

○…職員は「1キロでも大きいが、これはすごい。目玉展示の一つになる」と歓迎。ただ、あまりに大きいため、エビ類の水槽では、他のエビと同居が難しく、急きょ単独の水槽を用意した。触覚がつかえることもあるものの、元気に暮らしているという。（清水・富尾和方）

イセエビの仲間のニシキエビで、体長60センチ、重さ3・78キロ。重さは、市場で沖でイセエビ漁をしていた時に捕獲。「30年以上漁師をしているが、こんなでかいのは初めてでびっくりした」と目を丸くする。

土佐清水市沖で捕獲された超特大のニシキエビ（同市の県立足摺海洋館）

[記事③] **土佐清水市浜益野の漁師さんがイセエビ漁の最中に捕獲した、60ｃｍ、3.78ｋｇの超特大ニシキエビが持ち込まれた。大きすぎるため、急きょ専用水槽を準備して、展示を開始した**

2014年（平成26年）10月31日

足摺海洋館 GW盛況

土佐清水市

40周年で式典 期間中イベント多彩

【清水】土佐清水市三崎の県立足摺海洋館が2日、開館40周年を迎えて記念式典を開いた。餅投げなどで節目を祝い、家族連れら約1100人が訪れ終日にぎわった。

1975年5月2日オープンの同館は、足摺宇和海国立公園の拠点観光施設として県が7億円かけて整備。近海の魚介類を中心に約200種3千匹を展示し、年間約5万人が訪れている。施設老朽化が進んでいることから県は昨年、建物の新築改修方針を決定している。

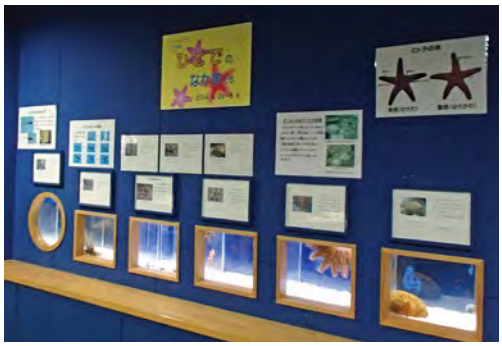
式典では西宮正夫館長が「幡多地域の観光に不可欠な中核施設。これからも周辺の自然環境を生かし、素晴らしい館にしていきたい」とあいさつ。和太鼓演奏のほか、ペラ焼きなどの軽食販売（～6日）、ウミウシを展示する企画展（～10日）もあり、ゴールデンウイークムードを盛り上げた。

家族3人で訪れた同市三崎の団体職員、岩井拓史さん(36)は「小学生の時からなじみで、今は3歳の長男と毎週のように来ています。たくさんの種類の魚がいて飽きません。新しくなったら、地元らしいサバの大群が見たい」と期待を込めていた。

和太鼓演奏などで40周年を祝った足摺海洋館（土佐清水市三崎）

[記事⑤] 開館 40 周年を祝う記念式典が開催され、餅投げや和太鼓演奏などが行われた。この日は 1100 人が訪れ、終日賑わった

2015年（平成27年）5月3日



土佐清水沿岸に生息するヒトデを集めた「あつまれ！ひとでのなかまたち」の企画展。サンゴを食べるオニヒトデや、腕が細かく枝状に分かれているテズルモズルなど、8 種 20 匹のヒトデが展示された。生態にまつわるクイズもあり、家族連れらで賑わった

魚の餌やり体験人気

足摺海洋館 年間パスで何度でも

【清水】土佐清水市三崎の県立足摺海洋館から、用意された「アジや三崎の黒潮足摺海洋館から、用意されたアジやイカの切り身を投げ入れると、体長70～80センチの同館名物のロウニンアジなどの大型シマ鯛やイサキの群れなどがバシャバシャとしぶきを上げて集まってきた。

この結果、12年度に300人だった参加者は13年度には4611人に大幅増。14年度は大幅増で1222人にとどまったが、本年度は夏休み期間が延長され、8月は昨年度の2倍の240人が参加。体験は2009年度に年間パスポートの発売に合わせた特典としてスタート。パス所有者は無料で何回でも参加できる。当初奥教日も増えているという。

子ども3人で訪れた幡多郡黒潮町の主婦、村上与恵さん(37)は「今年3回目で来るたびに楽しんでいます。迫力があって何回やっても面白い」と歓声を上げていた。西宮正夫館長は「市内の宿泊客の取り込みが増え、手応えがある。館をより知ってもらう機会になればうれしい。ぜひ、たくさんの方々を入れたい」と意気込んでいる。

年間パスは高校生を除く18歳以上千円、小中高校生500円で、購入日から1年間有効。体験は毎月第1日曜日まで。申し込みが必要。問い合わせは、同館（0880・85・0635）へ。

餌やり体験を楽しむ家族連れ（土佐清水市三崎の足摺海洋館）

[記事⑦] 2015年（平成27年）9月5日

年間パスポート購入で何度でもできる大水槽の餌やり体験が人気を集めた。参加者は、大水槽の真上にある橋から、魚の切り身などを投げ入れる。ロウニンアジやイサキの群れが餌を勢いよく食べる様子に歓声が上がった

土佐清水に巨大ダンゴムシ!?

深海生物ダイオウグソクムシ 足摺海洋館 四国初公開へ

【清水】巨大なダンゴムシのような深海生物ダイオウグソクムシ2匹を、土佐清水市三崎の県立足摺海洋館が22～30日に国内で初めて一般公開する。いずれも体長30センチ前後で、同館は「めったに見ることができない生物。足を通ってほしい」と呼び掛けている。

映画のダンゴムシやフナムシと同じ等脚目の生物で、体は硬い甲羅で覆われている。メキシコ湾などの深海底に生息し、他の生物の死骸などを食べる。成長すると体長50センチにもなるという。

下田敬勇支配人は「できる限り長生きしてほしい」と期待しており、個体の様子を見ながら常設展示も検討する方針。

22～24日はこども向けのダイオウグソクムシクイズやあなたのクイズイベントもある。問い合わせは同館（0880・85・0635）へ。（宮尾和方）

四国で初めて展示されるダイオウグソクムシ（土佐清水市の足摺海洋館）

[記事④] 2014年（平成26年）11月19日

交雑種ウミガメ展示

土佐清水市 足摺海洋館「環境問題考えて」

展示水槽を泳ぐ交雑種とみられる子ガメ（土佐清水市の足摺海洋館）

【清水】土佐清水市三崎の県立足摺海洋館が、自然界ではあまり見られないアカウミガメとタイマイの交雑種とみられるオス10匹の飼育担当者を始め、二度所でしている。国内の水族館で交雑種が展示されるケースはほとんどなく、同館は「環境問題を考えるきっかけにしてほしい」としている。

NPO法人日本ウミガメ協議会（大阪府枚方市）会員で、ウミガメの保護活動に努めている浦部幸三さん(67)＝四万十市木屋ヶ島町＝がつづけた、今年4月末から現場に詰めていた。今季、浦部さんは同市の双海海岸と平野海岸で2522個の卵を保護し、ふ化した中から約100匹の交雑種を発見した。甲羅の幅は、約10センチ。ほぼ元の母ガメと、沖縄や奄美諸島の海域で生息するタイマイの特徴を持つという。

このうち、裏返しした10匹を飼育観察のため9月末に同館に引き渡した。

同館は昨年も同様の特徴を持つ4匹の飼育を非公開水槽で試みたが、5カ月ですべて死んだ。日本ウミガメ協議会の佐武厚会長は「交雑種は調査研究が十分でなく、実態不明な点が多い。子ガメ段階では見分けが難しく、どのように成長していくのか興味深い」としている。

10匹は体長5センチほどで餌のイカなどの切り身をよく食べ、どの個体も元気という。環境に慣れたため、同館は5匹を展示用の水槽に移し、「ちょっと珍しいウミガメの赤ちゃん」として紹介している。

浦部さんは「母ガメが産卵に交雑種と思われ、交雑が広く進んでいると推測される。地球規模の環境の変化が影響している可能性があり、子ガメが同館に思い出をはせてほしいと願っている。今季、浦部さんは同市の双海海岸と平野海岸で2522個の卵を保護し、ふ化した中から約100匹の交雑種を発見した。甲羅の幅は、約10センチ。ほぼ元の母ガメと、沖縄や奄美諸島の海域で生息するタイマイの特徴を持つという。

このうち、裏返しした10匹を飼育観察のため9月末に同館に引き渡した。

[記事②] 2014年（平成26年）10月26日

2016-2019

平成26年～平成27年

2016.02.18　新足摺海洋館具体化へ　基本設計助言会議が発足
2016.05.01　「海の宝石」　ウミウシ展開催 [記事①]
2016.05.13　昨年度入館者5万人回復　リピート増で11年ぶり
2016.06.07　大水槽など展示案議論　新海洋館で助言会議
2016.06.19　竜串地区に自然体験拠点　環境省整備へ　地形や生態系紹介
2016.06.20　爪白キャンプ場再整備　計画策定へモニター調査
2016.08.13　愛らしいフグ　10種類を展示
2016.10.25　大岐の浜に迷いクジラ　住民協力　海へ返す
2016.10.26　県立足摺海洋館建て替え「日本初の要素を」「黒潮」テーマに展示案　高知市で助言会議
2016.11.06　足摺海洋館で飲食フェア
2016.11.15　希少サンショウウオ守れ　企画展30日まで [記事②]
2016.11.25　竜串整備、３施設で国など説明。住民経済効果期待
2016.12.25　サンタは大忙し。魚達にも贈り物 [記事③]
2016.12.28　こども高知新聞　読もっか『高知事典』2009年12月23日　リョウマエビ　龍馬に負けない風格
2017.01.27　新足摺海洋館　自然と連動　基本設計まとまる
2017.02.23　こども高知新聞　読もっか『県内いきものウォッチ』　カラスエイ [記事④]
2017.03.06　ジオ市民ガイド　腕磨く　初のモニターツアー
2017.04.06　オオイタサンショウウオ　土佐清水の天然記念物に　九州外で唯一生息
2017.10.26　足摺海底館45周年　28、29日 イベント開催
2017.11.04　永久の愛！魚も祝福。海洋館大水槽で結婚式
2017.12.26　官民で竜串観光振興を。県など会合。周遊の仕組み検討へ
2017.12.25　Ｘマス、海上展望室で夜景と食事　家族連れ堪能
2018.01.11　新海洋館　経済効果57億円　開館後３年間　県試算　安定期目標　年11万人
2018.01.24　狙え300万人目　27、28日到達か　記念品贈呈
2018.01.29　入館300万人　開業43年「新築へステップ」
2018.01.31　三崎小6年が竜串ガイド　来月9日　環境学習の成果紹介
2018.04.03　竜串湾サンゴ壊滅の危機。オニヒトデ食害拡大　ダイバー駆除　防戦一方
2018.04.10　竜串観光推進協　官民16団体で発足
2018.08.13　ソフトコーラル飼育中。企画展を開催「売りの一つに」
2018.08.28　支社局「発！」<ニュース深堀り>足摺・竜串の自然と融合　わざわざ見たい海洋館に
2018.09.05　新足摺海洋館　愛称公募　来月15日まで
2018.09.14　新足摺海洋館が起工　竜串の再開発本格化 [記事⑤]
2018.09.17　土佐清水にだけ生息　新種サンショウウオ企画展
2018.10.06　新足摺海洋館　飲食店と連携　集客を
2019.01.06　竜串でマグロ解体　長太郎釣りゲーム　12、13日
2019.01.08　サラワクイルカ？ 四万十市に漂着
2019.01.31　新足摺海洋館愛称「SATOUMI（さとうみ）」に決定 [記事⑥]
2019.02.17　竜串再開発キャンプ場４月オープン
2019.04.25　竜串のウミウシをバッジに。GW限定販売 下敷きプレゼントも
2019.05.05　足摺海洋館44周年　記念イベントにぎわう [記事⑦]
2019.05.08　シンボルマーク募集　最優秀に賞金20万円
2019.05.25　神戸の修学旅行生　海洋館で１泊
2019.07.26　新海洋館カフェ　テナントを募集
2019.08.15　足摺海洋館「SATOUMI」シンボルマーク決定 [記事⑧]

「海の宝石」ウミウシ展　足摺海洋館

【清水】土佐清水市三崎の県立足摺海洋館で、巻き貝の仲間のウミウシ展が開かれている。入館者からは「カラフルできれいー」といった感想のほか、「気持ち悪いけど、かわいい」などの声も。8日まで展示。

「海の宝石」の異名があるウミウシは殻が退化し、鮮やかな体色を持つ種類も多い。世界に2千種以上おり、うち国内では約120種、竜串湾周辺では300種が確認されている。同展では、飼育員らが竜串で採取した1～20ミリほどの10種が出迎えてくれる。

青と黄色の「アオウミウシ」＝写真中央＝は頭から出た2本の赤い触覚がチャーミング。体長は4ミリほどで、背中の花のような突起がエラだという。ほかにも、オレンジ色のイガグリのような種や、真っ白い絹のようなタイプなど、色とりどりのウミウシを観賞できる。（新田祐也）

[記事①] **鮮やかな体色をもつウミウシの展示を開催。入館者からは「カラフルできれいー」といった感想のほか「気持ち悪いけど、かわいい」などの声も。飼育員らが竜串で採集した 10 種を展示した**

2016年（平成28年）5月1日

魚たちにも贈り物　足摺海洋館

サンタからのプレゼントに群がる魚たち（土佐清水市の県立足摺海洋館）

【清水】魚も大好き!? クリスマス――。土佐清水市三崎の県立足摺海洋館で23日、サンタクロースが大水槽に登場し、魚たちにたっぷりの餌をプレゼントした。年末の恒例企画「夜の水族館」の一幕で、家族連れら約450人の歓声が響いた。25日まで。

通常通り午後5時に閉館した後、同6～9時に再びオープン。いつもより照明を落とした館内では、魚の夜の生態が観察できる。

サンタに扮した飼育員は、通常の2倍の餌を携えて大水槽に入り、魚も大興奮。水槽越しにサンタと勝負してお菓子がもらえるじゃんけん大会もあり、子どもたちが列をなした。

清水中学校音楽部による、クリスマスソングの演奏も。不破琉華さん(13)は「水族館で演奏するのは初めてで緊張したけど、クリスマスを盛り上げられたのでうれしい」と笑顔だった。

25日もサンタとのじゃんけん大会、吹奏楽の演奏が行われる。（新田祐也）

[記事③] **年末恒例企画となった「夜の水族館」で、大水槽にサンタが登場し、魚達にたっぷりの餌をプレゼントした。通常の２倍の餌を与え、魚も観客も大興奮。水槽越しにサンタと勝負してお菓子がもらえるジャンケン会も人気**

2016年（平成28年）12月25日

いきものウオッチ

カラスエイ

◆土佐清水市・足摺海洋館◆

カラスという名の通り、黒っぽい色が特ちょうです。足摺海洋館の平田敏勇支配人によると、ふつうエイは背中の模様や色とは別に、おなかは白いのですが、カラスエイはおなかも黒いそう。またほかのエイとちがって海面の近くで生活しています。胸びれを鳥のつばさのように動かして泳ぎ、さらに後ろ向きに泳ぐこともできるそうです。

南日本をふくむ温帯から熱帯の海にいます。餌で飼育しているのは土佐清水市以布利沖の定置網にまよいこんだ２ひきで、胸びれを広げたはばはそれぞれ60センチ、70センチほど。むちのようにしなる長い尾に毒があり、注意が必要です。

クイズ　口がおなか側にあるエイはえさに体をおおいかぶせて食べるのが一般的。でもカラスエイは二種ちがいます。どう食べる？
答えはこのページのどこかにあるよ

いきものウオッチャー
高知新聞清水支局
新田　祐也

[記事④]

黒っぽい色が特徴のカラスエイ。普通のエイとは違い、お腹側も黒く、胸びれを翼のように動かして泳ぎ、後ろ向きに泳ぐこともできる。餌を胸びれで包み込むようにしてキャッチするなど食べ方も一風変わっている。当館では以布利沖の定置網に迷い込んだ２匹を飼育した

2017年（平成29年）2月23日

土佐清水 足摺海洋館44年　記念イベントにぎわう

大勢の親子連れらでにぎわった開館記念イベント（土佐清水市の足摺海洋館）

【清水】土佐清水市三崎の県立足摺海洋館で、2日のイベントには新野大館長が、新館にちなんで足摺周辺で取れた魚の幼魚を展示する。オレンジ色のカエルアンコウや、黄色と黒のしま模様のカコカキダイが愛らしく泳ぐ姿が見られる。

開館44周年のきょうまでの生き物を展示する地元密着型の水族館にしたいとあいさつ。清水中学校音楽部が「屋根の上のポルカ」など、海にまつわる曲を披露。地元あしずり太鼓の演奏もあった。開館までの日数を記した手作りのパネルもお目見えした。

同館は1975年に開館。深さ6メートルの大水槽などを備え、魚介類など約300種、3千匹を展示している。新館は現施設の西側に建設中で、愛称は「SATOUMI」に決まっている。

[記事⑦] **開館 44 周年の記念イベントが開かれ、清水中学校音楽部やあしずり太鼓の演奏が行われた。また、開館までの日数を記したスタッフお手製のパネルも披露された**

2019年（令和元年）5月5日

希少サンショウウオ守れ

足摺海洋館で企画展 30日まで

【清水】四国では土佐清水市だけに生息するオオイタサンショウウオの企画展が同市三崎の県立足摺海洋館で開かれている。人工繁殖した9匹を観察でき、このほど行われた学習会では専門家が保護活動を紹介した。展示は30日まで。

四国内では土佐清水市だけに生息するオオイタサンショウウオ（同市の県立足摺海洋館）

「オオイター」は全長13センチほどの小型のサンショウウオで、大分、宮崎、熊本の各県と土佐清水市に生息。高知県レッドデータブックでは、野生での絶滅の危険性が極めて高い絶滅危惧種1A類に指定されている。

学習会は、わんぱーくこうちアニマルランド（高知市）の渡部孝園長らが講師を務め、家族連れら約30人が参加した。

渡部園長らは、オオイタが林の中の水たまりで生活し「渇水による絶滅の可能性が高い」ことや、アニマルランドが2001年から生息地で産卵池の造成を続けていることなどを説明。11年に成功した人工繁殖などを踏まえ「分散飼育や生息域の保全などやるべきことは多い」と指摘した。

土佐清水市では初めての展示で、渡部園長は「やっと里帰りをさせてあげられた。地元に珍しい生物がいることを知って、自然に目を向けるきっかけになれば」と期待していた。（新田祐也）

[記事②] **四国では、土佐清水市だけに生息するオオイタサンショウウオの企画展を開催。人工繁殖した 9 匹が展示され、専門家が保護活動の紹介も。高知県レッドデータブックでは、絶滅危惧種 1 A に指定される希少種で、2018 年 6 月に「トサシミズサンショウウオ」として新種認定された**

2016年（平成28年）11月15日

新海洋館が起工

竜串の再開発本格化

土佐清水市 20年夏オープン

【清水】土佐清水市で進む竜串再開発の中核をなす県立「新足摺海洋館」の起工式が13日、同市三崎の現海洋館敷地で行われた。近隣では、人気アウトドアブランドが運営する「パ日スノーピークが整備する市が整備する「パ日キャンプ場」と、環境省の「ビジターセンター」が底に着工。新海洋館が開館する2020年7月までに順次オープンの見込みで、再開発が本格的に動き始めた。（新田祐也）

起工式には県、市、環境省ら関係者約70人が出席。関係者のくわ入れなどで工事安全を祈願した。

総事業費は45億円で、竜串湾を再現する大水槽など地元の自然にこだわった300種4500匹を展示する。現館の1・4倍ほどの規模となる鉄筋コンクリート2階建て（延べ床面積約3400平方メートル）で水槽70基を設置。20年7月末に現館を閉館し、7月ごろの開館を目指す。

新海洋館から西へ200メートルほどにある小日キャンプ場は19年春にオープン予定。総事業費4億円、約3万平方メートルの敷地内に宿泊コンテナ12基、キャンプ用品の貸し出しスペースや浴場（延べ床面積約1400平方メートル）が19年度中に完成する予定。自然体験メニューを紹介する受付を備え、展示室には竜串湾を中心とした国立公園の案内や市のジオパーク活動を紹介する。

新海洋館の東側では、足摺宇和海国立公園の魅力を伝える環境省の「ビジターセンター」が19年春に開館する。国と市の施設も完成し、盛り上がりが期待できる。地元を含めた協議を深め、観光全体への波及効果を生み出したい」と話した。

取材に対し、吉村大・県観光振興部長は「新海洋館の開館と同時期に国と市の施設も完成し、盛り上がりが期待できる。地元を含めた協議を深め、観光全体への波及効果を生み出したい」と話した。

くわ入れなどで工事の安全を祈った新足摺海洋館の起工式（土佐清水市三崎）

[記事⑤]

2018 年 9 月 13 日、新・足摺海洋館の起工式が当館敷地内で行われ、県、市、環境省ら関係者約 70 人が出席した。くわ入れなどで工事の安全を祈願した

2018年（平成30年）9月14日

新足摺海洋館の愛称「SATOUMI」が発表された表彰式。右が考案した山本明子さん（30日午後、県庁）

来夏オープンの新足摺海洋館

愛称「SATOUMI（さとうみ）」

県立足摺海洋館（土佐清水市）を建て替え、2020年夏にオープン予定の「新足摺海洋館」の愛称が「SATOUMI」に決まり、県が30日発表した。同館の広報活動などで活用していく。

昨年9月3日～10月15日の間に、全国の2255人から3092件の応募があった。同館の館長や地元の高校生ら7人の選考委員が審査し、岡山県倉敷市の山本明子さん（55）が最優秀賞に選ばれた。

岡山の女性考案

山本さんは、長男が高知大学に通っていた縁もあり、高知には度々訪れているという。「竜串地域全体が大きな自然の水族館」という「山々に囲まれた風光明媚な竜串地区を思い出しながら考えました。名付け親になれて大変光栄です」と笑顔を見せていた。

優秀賞には「足摺オーシャンパーク」「くろしおマリンパーク」「オーシャンパーク足摺」の3作品が選ばれた。（今川彩香）

[記事⑥]

新足摺海洋館の愛称が「SATOUMI（さとうみ）」に決定。全国 2255 人、3092 件の応募があった中、当館館長や地元の高校生ら 7 人の選考委員が審査し、岡山県倉敷市の山本明子さんが最優秀賞に選ばれた

2019年（平成31年）1月31日

足摺海洋館「SATOUMI」

シンボルマーク決まる

神奈川の菅さん作品

来年7月にリニューアルオープンする土佐清水市三崎の県立足摺海洋館「SATOUMI」のシンボルマークが決まり、14日、県が発表した。

新海洋館は現在の施設の1・4倍ほどの規模で、竜串湾を再現する大水槽など地元の自然にこだわった300種4500匹を展示する予定。昨年9月から建設している。

シンボルマークは県が4月から6月にかけて公募。全国から集まった応募作品の中から神奈川県藤沢市の画家、菅拓也さん（39）の作品に決まった。

水色の円の中に魚の頭部を愛嬌のあるタッチで描いた。家の片付けをしていて見つけた保育園時代の絵をヒントに、「子どものころに戻って絵日記で水族館を描いたイメージ」だという。

選考委員からは「インパクトがあり、新しい水族館を認知してもらうのにぴったり」などと評価された。（乃井康弘）

表彰式に出席した菅拓也さんと受賞作品（県庁）

[記事⑧]

新足摺海洋館のシンボルマークが決定した。全国から集まった 972 作品の中から神奈川県藤沢市の画家・菅拓也さんの作品に決まった。保育園時代の絵をヒントに、「子どものころに戻って絵日記で水族館を描いたイメージ」とのこと

2019年（令和元年）8月15日

シノノメサカタザメの長期飼育に挑戦

当館の”目玉”といえば、やはりシノノメサカタザメだろう。飼育生物の中でもひと際大きく、エイのようなサメのような独特な見た目で、マンボウと人気を二分してきた。
オープン当初は、まだまだ長期飼育が困難な時代だった。それでも今はほとんど獲れなくなってしまった本種が、近場の定置網に頻繁に入り、飼育の機会に恵まれた。他館では飼育例が少なく、初めての試みも多い中で、長期飼育への挑戦は続けられてきた。
今では、大水槽のスターとなったシノノメサカタザメ。その飼育の軌跡をたどる。

■ 1977.4.8

以布利の定置網に、体長1.7m、重さ50kgのオスが入る。後に「ゴン」と名付けられる。
この頃、和歌山県白浜の京都大学付属水族館で5年5ケ月の飼育記録あり、ゴンはそれを破るかもしれないと期待されていた。しかし、1979.03.24、飼育３年目で死亡し、スタッフ一同がっかり。当館の飼育記録は、907日だった。

■ 1977.5.8

窪津の定置網に150ｋｇ、体長2.5mの超大型のオスが入る。日本近海で獲れるのは珍しく、当時全国の水族館でもこれほどの大物は例がなかった。2、3日で水槽の生活にも慣れ、大水槽内を悠々と泳いでいた。問題は、餌付け。サメの主食は、エビやカニなどの甲殻類や小魚。5月13日から始まった餌付けでは飼育係が直接ウマヅラハギを与えていたが、なかなか食べなかった。当館は、新たなスター誕生を期待していただけに、祈る思いで餌付け作業を続けた。その結果、成功に至るも、1977年･秋に死亡。

■ 1979.4.13

貝ノ川の定置網に入った個体は、全長1.75m、40kgのメスだった。メスは初で、その後愛称を一般募集して「サチ」と名付けられた。
大水槽に入れるも、一週間餌を食べなかったため、人工的に餌付けを試みる。
初日は、２人のダイバーが餌をかごに入れて水深６ｍの水槽に潜水。一人が大きなサメの魚体を両手で抱え、もう一人が手に餌のメジカを持って口に押し込む作業を５分ほど繰り返した。興奮したサメは、餌を一噛みし、その後吐き出し結局食べなかった。代わりに周りにいたクエたちが喜んでメジカをパクリ。
飼育係は、気長に餌付けしたい、と話していたが、その後無事に餌付けは成功。
しかし、6ヵ月足らずで死亡（1979.10.14）。死因は、肝臓機能障害とみられた。

[木製のコンテナで搬送されるサチ]

■ 1980.6.30

以布利より、体長2.7m、幅1.5mの大型のオスが入る。少し前に同じ網で捉えられたメスと、２匹揃って仲睦まじく泳ぐ姿が話題を呼んだ。同年11月くらいに死亡。

■ 1981.4.24

5ケ月ぶりにシノノメサカタザメが再登場。4月21日午後、以布利の定置網に入ったもので、体長2m、体重70ｋｇのオスだった。26日から、職員がマアジの餌付けを行ったが、なかなか飲み込もうとせず、悪戦苦闘。
最初は、水槽に慣れないせいか、上部付近をずっと泳いでいて、客泣かせだった。この頃、当館ではすでに10匹のシノノメサカタザメの飼育実績があった。

■ 1981.5

足摺岬沖で獲れたメスが搬入され、先月、以布利から来たオスと同居することに。
メスは水槽に入った直後は弱っていたが、餌付けに成功。オスとともに、当館の一番の人気者になった。「愛称募集」では2457通もの応募があり、職員らが選考。その結果、オスは「サン太」、メスは「ナミ」に決まった。ナミは、1982.3.4死亡。

■1982.6.21

シノノメサカタザメが3カ月半ぶりに再登場した。貝ノ川の定置網で獲れたもので、体長1.9m、推定50～60ｋｇのオス。飼育員４人が荷台に水槽を設置した特製トラックで駆け付け、麻酔をかけて運んだ。「シノノメの飼育は最初がポイント」と言われるだけに扱いも慎重。当館では、この個体が13匹目。

[2020年で飼育14年目になるシノノメサカタザメ]

■1985.10.29

この時、大水槽には３匹のシノノメサカタザメが飼育されていた。
そのうちの一匹である、同年6月15日に貝ノ川の定置網で獲れた体長150ｃｍ、体重４０kgのオスが愛知の碧南海浜水族館に譲られた。大水槽からの捕獲作戦は10人がかり。餌のカニで水槽上部までおびき寄せ、水面に上がってきたところを引き揚げ、シートの上に乗せ、エレベーターで下に運んだ。その後搬送用の水槽に収まるまで約15分。

■ 2000.12.25

約５年ぶりの展示。12.10に以布利の定置網に入った、体長2.1m、体重約100ｋｇメス。餌は、二日に一度、職員が潜水してアジを与えた。ここまでに一番の長生き個体は、約10年生きている。

■ 2004.6.1

体長2.1mの個体が２年ぶりに登場。

■ 2006.4.30

以布利の定置網に、体長140ｃｍの小ぶりのオスが入り、搬入された。

マンボウ飼育奮闘記

シノノメサカタザメと同様、昭和50年代には、長期飼育が難しかったマンボウ。そのユーモラスな見た目で、シノノメサカタザメに勝るとも劣らない人気を博してきた。当館において、マンボウの飼育といえば下田課長。勤続32年目となるが、その多くの時間をマンボウ飼育に費やしてきた。ここでは、飼育した者にしかわからないマンボウの奇妙な生態や飼育の難しさについて綴る。

当館がオープンして間もなく、マンボウは以布利や貝ノ川の定置網で頻繁に獲れ、飼育が始まった。ぽわ～んとしていて悩みなどないように見えるが、実は神経質で生態についてもほとんどわからなかった生物。他館同様、この頃長期飼育は困難を極めた。

■ 971日達成

1994年8月3日、971日というそれまでの時点で最も長く生きたマンボウが死亡した。
この個体は、1991年12月7日に貝ノ川から来たオスのマンボウで、1000日まであと一歩のところだった。
飼育の一番の鍵となるのが水槽の水。目の前の海から取っていたが、台風の雨で川が増水し、塩分濃度が変化して、それにより体調を崩したことが原因とみられた。この頃、飼育の世界記録は千葉県・鴨川シーワールドの2993日だった。もう少しで大台達成だっただけに、マンボウの衰弱死は関係者をがっかりさせた。現在では、当館の飼育記録は1200～1300日に達している。[写真①]

主役の裏方
304
マンボウ飼育に情熱
足摺海洋館 飼育係主任 下田 敬勇さん
危機乗り越え900余日
1994年(平成6年)6月13日

[写真①]

■ 長期飼育の鍵は、一番は水質、次に給餌と排便

飼育を長続きさせるには、できるだけ自然界に近い環境で飼育することが大切だ。マンボウの場合、水温は18～19℃くらい、ph7.5程度で、比重は1.025前後。マンボウが暮らしやすい環境を維持しなければならない。
また、広い水槽も必要だが、給餌と排便がスムーズに行なわれることが長期飼育の鍵になる。

■ 専用水槽での飼育

1989年1月に、下田さんが入社した時にはすでにマンボウ専用水槽(縦4m、横5m、深さ2m)があった。しかし、広さがあまりないため、ある程度の大きさのマンボウしか飼えなかった。それまでは、マンボウが獲れる冬場の一ヶ月くらいの間、大水槽で飼っていたが、他の魚にかじられたり、壁に衝突するなどして、長生きはしなかった。[写真②]

■ 便秘がちな魚

「マンボウはよく便秘をするので、胃腸にも効くビタミン剤ポポンSを飲ませたりして、24時間体制で面倒をみたこともあります」（下田さんより）
マンボウは、腸が長く、神経質なため、便秘になりやすい生物なのだ。また、腸の中には、寄生虫である条虫(俗にいうサナダムシ)がたくさんいて、下田さんが解剖した時にカップラーメン１杯くらいの量が出てきたこともあったのだとか。寄生虫が成長すると便が出なくなるので厄介だ。マンボウは、腸の具合が悪いと壁に衝突してもぶつかったまま泳ぎ続けるので、調子が悪い時はわかるという。

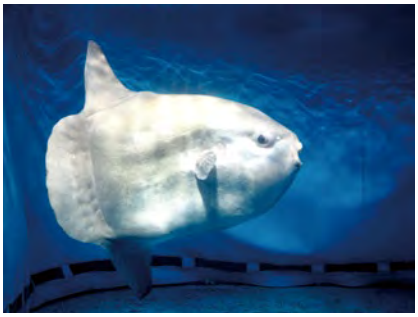
[写真②]
オープン当初、大水槽で飼われているマンボウ

■ グルメな魚

マンボウはグルメで、おいしい食べ物を知っている。そのため、エビやイカは好んで食べるが、魚のミンチをあげると吐き出す。
エサは、給餌棒の先に甘エビとイカのすり身を団子状にしたものを付けて与えている。体にしわができない程度に与えるのがコツ。あげすぎると太って、消化不良になるので注意が必要だ。

■ マンボウに、天井に穴を開けられた！？

自然界では、マンボウは寄生虫を落とすために、水面から勢いよくジャンプすることが知られているが、水槽でも同様のことをしたことがあったようで……。
「ある日、マンボウ水槽の天井に穴が開いていてビックリしました！68ｃｍくらいのマンボウだったのですが、思いっきりジャンプしたのでしょうね」と下田さん。
意外とアグレッシブな魚なのである。



[写真③]
現在、専用水槽で飼われているマンボウ

■ 現在のマンボウ

今いるマンボウは、2017年2月19日に以布利から来たもので、当時93ｃｍ、35ｋｇの個体だった。餌は最初160ｇくらい与え、様子をみながら、300ｇ、500ｇと増減の調整をしながら与えている。フラッシュで驚いて壁にぶつかることがあるので、観覧面はフラッシュ撮影禁止。水槽内にブルーシートを張って、万が一の衝突を防いでいる。[写真③]

主な展示・飼育生物一覧表及び入館者推移

■ 魚類一覧

軟骨魚類（サメ、エイのなかま）	ネコザメ目	
	ネコザメ科	ネコザメ
	テンジクザメ目	
	オオセ科	オオセ
	メジロザメ目	
	トラザメ科	ナヌカザメ
	タイワンザメ科	タイワンザメ
	ドチザメ科	シロザメ
		ドチザメ
		ホシザメ
	カスザメ目	
	カスザメ科	カスザメ
	トンガリサカタザメ目	
	トンガリサカタザメ科	シノノメサカタザメ
	サカタザメ目	
	サカタザメ科	サカタザメ
	ガンギエイ目	
	ガンギエイ科	コモンカスベ
	トビエイ目	
	ヒラタエイ科	ヒラタエイ
	アカエイ科	アカエイ
		カラスエイ
		ヤッコエイ
	トビエイ科	マダラトビエイ
硬骨魚類（アジ、スズキ、ウナギ、カレイ、フグ等のなかま）	ウナギ目	
	ウナギ科	オオウナギ
		アデウツボ
	ウツボ科	ウツボ
		トラウツボ
		アミメウツボ
		サビウツボ
		ニセゴイシウツボ
		オナガウツボ
	ウミヘビ科	ゴイシウミヘビ
	アナゴ科	チンアナゴ
		ニシキアナゴ
	ナマズ目	
	ゴンズイ科	ゴンズイ
	アシロ目	
	アシロ科	イタチウオ
	アンコウ目	
	カエルアンコウ科	オオモンカエルアンコウ
		ハオコゼ
	キンメダイ目	
	イットウダイ科	イットウダイ
		テリエビス
		アヤメエビス
		アカマツカサ
	マツカサウオ科	マツカサウオ
	トゲウオ目	
	ヘコアユ科	ヘコアユ
	ヨウジウオ科	オオウミウマ
		タカクラタツ
		クロウミウマ
		ヨウジウオ
		イシヨウジ
		カワヨウジ
	スズキ目	
	フサカサゴ科	カサゴ
		ユメカサゴ
		オニカサゴ
		サツマカサゴ
		ニモカサゴ
		ハナミノカサゴ
	オニオコゼ科	オニオコゼ
		オニダルマオコゼ
	ホウボウ科	ホウボウ
	セミホウボウ科	セミホウボウ
	アカメ科	アカメ
	ハタ科	アザハタ
		スジアラ
		ユカタハタ
		オオモンハタ
		アカハタ
		ヤイトハタ
		クエ
		クエ×ヤイト
		カスリハタ
		シロブチハタ
		ツチボセリ
		カンモンハタ
		チャイロマルハタ
		アオハタ
		キジハタ
		キンギョハナダイ
	タナバタウオ科	シモフリタナバタウオ
硬骨魚類（アジ、スズキ、ウナギ、カレイ、フグ等のなかま）	キントキダイ科	ホウセキキントキ
		ゴマヒレキントキ
	テンジクダイ科	クロホシイシモチ
		オオスジイシモチ
		ヨコスジイシモチ
		マンジュウダイ
		イトヒキテンジクダイ
	スギ科	スギ
	アジ科	カンパチ
		シマアジ
		ギンガメアジ
		ロウニンアジ
	フエダイ科	ゴマフエダイ
		クロホシフエダイ
		ロクセンフエダイ
		ヨスジフエダイ
		ヒメフエダイ
		フエダイ
	タカサゴ科	タカサゴ
	マツダイ科	マツダイ
	イサキ科	イサキ
		コショウダイ
		コロダイ
		ヒゲダイ
	タイ科	チダイ
		マダイ
		ヘダイ
	フエフキダイ科	ハマフエフキ
		メイチダイ
	ヒメジ科	オキナヒメジ
		ホウライヒメジ
		ヨメヒメジ
		ウミヒゴイ
	ハタンポ科	ミナミハタンポ
	チョウチョウウオ科	フエヤッコダイ
		アミチョウチョウウオ
		トゲチョウチョウウオ
		フウライチョウチョウウオ
		チョウハン
		チョウチョウウオ
		コクテンカタギ
		ミゾレチョウチョウウオ
		アケボノチョウチョウウオ
		シラコダイ
		ハタタテダイ
		オニハタタテダイ
		ムレハタタテダイ
	キンチャクダイ科	キンチャクダイ
		サザナミヤッコ
		タテジマキンチャクダイ
		レンテンヤッコ
		シテンヤッコ
		ソメワケヤッコ
	カワビシャ科	テングダイ
	ゴンベ科	オキゴンベ
		クダゴンベ
		イソゴンベ
		ホシゴンベ
	タカノハダイ科	タカノハダイ
		ミギマキ
	スズメダイ科	クマノミ
		カクレクマノミ
		ハマクマノミ
		ミツボシクロスズメダイ
		ミスジリュウキュウスズメダイ
		コガネスズメダイ
		デバスズメダイ
		ソラスズメダイ
		ネッタイスズメダイ
		ナガサキスズメダイ
		シマスズメダイ
		オヤビッチャ
		ロクセンスズメダイ
		テンジクスズメダイ
		ルリスズメダイ
		シリキルリスズメダイ
		ネズスズメダイ
		ミヤコキセンスズメダイ
		イソスズメダイ
	シマイサキ科	コトヒキ
	タカベ科	タカベ
	ユゴイ科	ギンユゴイ
	イシダイ科	イシダイ
		イシガキダイ
	イスズミ科	イスズミ
	カゴカキダイ科	カゴカキダイ
硬骨魚類（アジ、スズキ、ウナギ、カレイ、フグ等のなかま）	メジナ科	メジナ
		クロメジナ
		オキナメジナ
	ベラ科	イラ
		コブダイ
		オトメベラ
		ニシキベラ
		ササノハベラ
		イトヒキベラ
		ホンソメワケベラ
		メガネモチノウオ
	ブダイ科	ブダイ
		ヒブダイ
		アオブダイ
	イソギンポ科	カウルウオ
	ネズッポ科	ニシキテグリ
	ハゼ科	クモハゼ
		ゴマハゼ
		ギンガハゼ
	クロユリハゼ科	ハタタテハゼ
		アケボノハゼ
	マンジュウダイ科	ナンヨウツバメウオ
		ツバメウオ
	ニザダイ科	ニザダイ
		テングハギ
		ナンヨウハギ
		ニセカンランハギ
	カマス科	オニカマス
	フグ目	
	モンガラカワハギ科	メガネハギ
	カワハギ科	カワハギ
		ウマヅラハギ
		アミメハギ
		フチドリカワハギ
	ハコフグ科	ハコフグ
		ウミスズメ
	フグ科	サザナミフグ
		キタマクラ
	ハリセンボン科	ハリセンボン
		イシガキフグ
		メイタイシガキフグ
	マンボウ科	マンボウ
魚類　16目　71科　198種		

■ 無脊椎動物一覧

刺胞動物（サンゴ、クラゲのなかま）	ウリクラゲ目	
	ウリクラゲ科	ウリクラゲ
	カブトクラゲ目	
	カブトクラゲ科	カブトクラゲ
	冠クラゲ目	
	エフィラクラゲ科	イラモ
	淡水クラゲ目	
	ハナガサクラゲ科	ハナガサクラゲ
	軟クラゲ目	
	マツバクラゲ科	ギヤマンクラゲ
	根口クラゲ目	
	サカサクラゲ科	サカサクラゲ
	タコクラゲ科	タコクラゲ
	旗口クラゲ目	
	オキクラゲ科	アカクラゲ
	ミズクラゲ科	ミスクラゲ
	花クラゲ目	
	キタカミクラゲ科	カミクラゲ
	イシサンゴ目	
	オオトゲサンゴ科	キッカサンゴ
		ハナガタサンゴ
	キサンゴ科	イボヤギ
		スリバチサンゴ
	クサビライシ科	クサビライシ
		マンジュウイシ
	サザナミサンゴ科	キクメイシ
		タカクキクメイシ
	センスガイ科	タコアシサンゴ
	ハナサンゴ科	アザミサンゴ
		ミズタマサンゴ
	ハナヤサイサンゴ科	ショウガサンゴ
	ハマサンゴ科	ハナガササンゴ
	ヒラフキサンゴ科	シコロサンゴ
		エンタクミドリイシ
		ホソエダミドリイシ
	ツノサンゴ目	
	ウミカラマツ科	ムチカラマツ
	ホネナシサンゴ目	
	イソギンチャクモドキ科	イソギンチャクモドキ
	イソギンチャク目	
	ウメボシイソギンチャク科	ウメボシイソギンチャク
		サンゴイソギンチャク
	カザリイソギンチャク科	ウンバチイソギンチャク
	ニチリンイソギンチャク科	ニチリンイソギンチャク
	ハタゴイソギンチャク科	ハタゴイソギンチャク
	ハナブサイソギンチャク科	ハナブサイソギンチャク
	ヤツバカワリイソギンチャク科	セイタカカワリギンチャク
	ウミエラ目	
	ウミサボテン科	ウミサボテン
	ウミシダ目	
	オオウミシダ科	オオウミシダ
	クシウミシダ科	ニッポンウミシダ
		ハナウミシダ
	ウミトサカ目	
	イソバナ科	オオイソバナ
	ウミアザミ科	ウミアザミ
	ウミトサカ科	ヒラウミキノコ
		ユビノウトサカ
	クダサンゴ科	クダサンゴ
	チヂミトサカ科	オオトゲトサカ
		キバナトサカ
		ビロードトゲトサカ
	トゲヤギ科	ウミウチワ
	ホソヤギ科	アカヤギ
		オウギフトヤギ
	ムチヤギ科	ムチヤギ
	サンゴ科	アカサンゴ
軟体動物（貝、ウミウシ、タコ、イカのなかま）	古腹側目	
	オキナエビスガイ科	コシダカオキナエビス
	ニシキウズガイ科	ギンタカハマ
	ミミガイ科	イボアナゴ
	リュウテンサザエ科	リンボウガイ
	新紐舌目	
	ウミウサギガイ科	ウミウサギガイ
	オキニシ科	オオナルトボラ
	ソデボラ科	スイジガイ
	タカラガイ科	ハチジョウダカラ
		ホシダカラ
	トウカムリ科	トウカムリ
		マンボウガイ
	ビワガイ科	ビワガイ
	フジツガイ科	カコボラ
		ホラガイ
	頭楯目	
	ウミコチョウ科	ムラサキウミコチョウ
	カノコキセワタ科	オハグロツバメガイ
	ミスガイ科	ミスガイ
	無楯目	
	アメフラシ科	アメフラシ
	嚢舌目	
	チドリミドリガイ科	コノハミドリガイ
	裸殻翼足目	
	ハダカカメガイ科	ハダカカメガイ
	傘殻目	
	ヒトデガイ科	ヒトエガイ
	側鰓目	
	ウミフクロウ科	マダラウミフクロウ
	裸鰓目	
	イボウミウシ科	コイボウミウシ
		フリエリイボウミウシ
	イロウミウシ科	アオウミウシ
		キイボキヌハダウミウシ
		サラサウミウシ
		シロウミウシ
		ゾウゲイロウミウシ
		テヌウニシキウミウシ
		ミアミラウミウシ
	オオミノウミウシ科	イロミノウミウシ
	カドリナウミウシ科	シモフリカメサンウミウシ
	クロシタナシウミウシ科	ミヤコウミウシ
	ゴシキミノウミウシ科	ジボガミノウミウシ
	ツツレウミウシ科	クモガタウミウシ
	ネコジタウミウシ科	ヒロウミウシ
	フジタウミウシ科	ウデフリツノザヤウミウシ
		ハナデンシャ
	ホクヨウウミウシ科	ユビノウハナガサウミウシ
	ミカドウミウシ科	ミカドウミウシ
	メリベウミウシ科	ヤマトメリベ
	イタヤガキ目	
	イタヤガイ科	ヒオウギ
	ウミギク科	ウミギク
	アウグイスガイ目	
	ウグイスガイ科	アコヤガイ
	ハボウキガイ科	ハボウキガイ

軟体動物（貝、ウミウシ、タコ、イカのなかま）	マルスダレガイ目	
	シャコガイ科	シラナミガイ
		ヒメシャコガイ
	オウムガイ目	
	オウムガイ科	オオベソオウムガイ
	コウイカ目	
	コウイカ科	カミナリイカ
		コブシメ
		トラフコウイカ
		ハナイカ
	ツツイカ目	
	ヒメイカ科	ヒメイカ
	ジンドウイカ科	オリイカ
	八腕形目	
	マダコ科	サメハダテナガダコ
		ヒョウモンダコ
		ヤワハダタコ
		ワモンダコ
	カイダコ科	タコブネ
	ミミイカ目	
	ミミイカ科	ダンゴイカ
	新腹足目	
	アッキガイ科	オニサザエ
		センジュガイモドキ
	イトマキボラ科	イトマキボラ
		ヒメイトマキボラ
	イモガイ科	アンボイナ
		タガヤサンミナシ
		バイ
	テングニシ科	テングニシ
	マクラガイ科	マクラガイ
環形動物（ゴカイのなかま）	ケヤリムシ目	
	カンザシゴカイ科	イバラカンザシ
		オオナガレハナサンゴ
	ケヤリムシ科	ホンケヤリ
節足動物（エビ・カニのなかま）	口脚目	
	シャコ科	シャコ
	ハナシャコ科	モンハナシャコ
	フトユビシャコ科	フトユビシャコ
	等脚目	
	スナホリムシ科	オオグソクムシ
		ダイオウグソクムシ
	十脚目	
	クルマエビ科	ウシエビ
	タラバエビ科	トヤマエビ
	モエビ科	アカシマシラヒゲエビ
		オトヒメエビ
		シロボシアカモエビ
	テッポウエビ科	ニシキテッポウエビ
	テナガエビ科	イソスジエビ

節足動物（エビ・カニのなかま）	フリソデエビ科	フリソデエビ
	イセエビ科	イセエビ
		カギテリョウマエビ
		ニシキエビ
		リョウマエビ
	セミエビ科	コブセミエビ
		ゾウリエビ
	アカザエビ科	アカザエビ
	チュウコシオリエビ科	オオコシオリエビ
	アナエビ科	ショウグンエビ
	オサテエビ科	オサテエビ
	サラサエビ科	ヤイトサラサエビ
	ヤドカリ科	イシダタミヤドカリ
		イボアシヤドカリ
		ソメンヤドカリ
		ユビワサンゴヤドカリ
	ホンヤドカリ科	ホンヤドカリ
	オカヤドカリ科	ヤシガニ
	タラバガニ科	メンコガニ
	アサヒガニ科	アサヒガニ
	キンセンガニ科	キンセンガニ
	カイカムリ科	オオカイカムリ
		カイカムリ
	ミズヒキガニ科	ミズヒキガニ
	コブシガニ科	テナガコブシ
	カラッパ科	トラフカラッパ
		マルソデカラッパ
		ヤマトカラッパ
	クモガニ科	エダツノガニ
		ケアシガニ
		タカアシガニ
		ノコギリガニ
		モクズショイ
	ヒシガニ科	カルイシガニ
		ハリカルイシガニ
	クリガニ科	ケガニ
	ワタリガニ科	アミメノコギリガザミ
		イシガニ
		シマイシガニ
		ジャノメガザミ
		ナマコマルガザミ
		ベニツケガニ
		モンツキイシガニ
	オウギガニ科	アカマンジュウガニ
		オオヒロハオウギガニ
		キンチャクガニ
		スベスベマンジュウガニ
		ホンマンジュウガニ
	イソオウギガニ科	マツバガニ
	エンコウガニ科	エンコウガニ

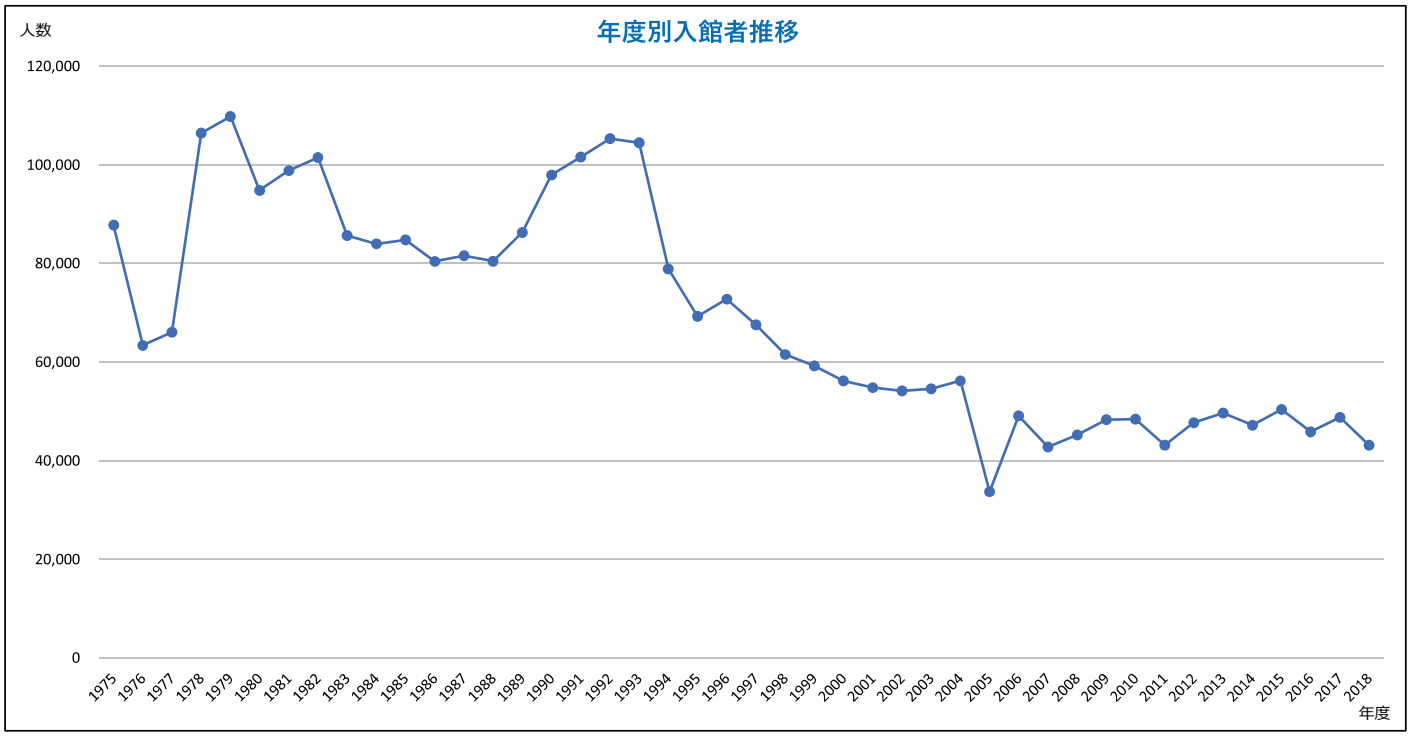
	アカモンガニ科	アカモンガニ
	ヘイケガニ科	キメンガニ
	サワガニ科	サワガニ
	スナガニ科	シオマネキ
		ハクセンシオマネキ
	イワガニ科	アシハラガニ
		ショウジンガニ
	ゴカクガニ科	ゼブラガニ
棘皮動物（ヒトデ・ウニのなかま）	ウミシダ目	
	オオウミシダ科	オオウミシダ
	クシウミシダ科	ニッポンウミシダ
		ハナウミシダ
	クモヒトデ目	
	クモヒトデ科	ニホンクモヒトデ
	モミジガイ目	
	スナヒトデ科	スナヒトデ
	モミジガイ科	トゲモミジガイ
	アカヒトデ目	
	コブヒトデ科	コブヒトデ
		マンジュウヒトデ
	ホウキボシ科	アオヒトデ
		オオアカヒトデ
	ナンカイヒトデ科	ヤマトナンカイヒトデ
	フトトゲヒトデ科	フトトゲヒトデ
	イトマキヒトデ科	イトマキヒトデ
	オニヒトデ科	オニヒトデ
	マヒトデ目	
	マヒトデ科	ヤツデヒトデ
	フクロウニ目	
	フクロウニ科	イイジマフクロウニ
	ガンガゼ目	
	ガンガゼ科	ガンガゼ
	ホンウニモドキ目	
	クロウニ科	クロウニ
	カマロドント目	
	ラッパウニ科	ラッパウニ
	オオバフンウニ科	アカウニ
	ナガウニ科	ツマジロナガウニ
		ナガウニ
	オウサマウニ目	
	ドングリウニ科	ドングリウニ
	キダリス目	
	ホンキダリス科	ノコギリウニ
	タコノマクラ目	
	タコノマクラ科	タコノマクラ
	カシパン目	
	スカシカシパン科	スカシカシパン
	樹手目	
	キンコ科	アデヤカキンコ

	楯手目	
	クロナマコ科	ジャノメナマコ
		トゲクリイロナマコ
		トラフナマコ
	シカクナマコ科	アカオニナマコ
	無足目	
	イカリナマコ科	オオイカリナマコ
脊椎動物以外の水生生物	マホヤ目	
	マボヤ科	マボヤ
無脊椎動物	54目	57科 227種

■ 哺乳類・爬虫類一覧

哺乳類	食肉目	
	アザラシ科	ゴマフアザラシ
爬虫類	カメ目	
	ウミガメ科	アオウミガメ
		アカウミガメ
		タイマイ
	ヌマガメ科	ミシシッピーアカミミガメ
	パタグールガメ科	クサガメ
		ニホンイシガメ
	有尾目	
	イモリ科	アカハライモリ
	サンショウウオ科	トサシミズサンショウウオ
	有隣目	
	コブラ科	セグロウミヘビ
		エラブウミヘビ
		アオマダラウミヘビ
両生類	無尾目	
	アオガエル科	カジカガエル
		シュレーゲルアオガエル
	アカガエル科	ツチガエル
		ヌマガエル
	アマガエル科	ニホンアマガエル
	ヒキガエル科	ニホンヒキガエル
哺乳類	1目	1科 1種
爬虫・両生類	4目	12科 17種

■ 入館者推移



累計入館者数　3,020,014 人

【展示順路】 ツバキが茂る足摺の原生林～竜串湾～足摺の海など、森、川を経て、太平洋の海へと続く展示構成となっています。

【足摺の原生林 ～いのちを育む源流の森～】

竜串湾の背後に広がる豊かな海を育む原生林を再現した1、2階吹き抜けの展示室。河川に生息する魚や土佐清水でしか見られないサンショウウオなどを見ることができます。

【竜串湾大水槽① ～サンゴが育む生物たち～】

足摺宇和海国立公園の中核エリアにある竜串湾を再現した水槽。シコロサンゴなど90種類以上の造礁サンゴが群生し、多種多様な熱帯魚たちが泳ぐ竜串湾を430ｔの大水槽で再現します。

【プロローグ ～黒潮を学ぶ～】

目の前の桜浜に産卵にやってくるウミガメの展示や、黒潮に育まれた竜串湾のサンゴの生体を内湾、外海など、生息域別に展示します。

【竜串湾大水槽② ～タッチングコーナー～】

竜串湾大水槽の2階部分には、奇岩を模した岩場の潮だまりを再現したタッチングコーナーがあり、ヤドカリやナマコなどの磯の生きものに触れることができます。

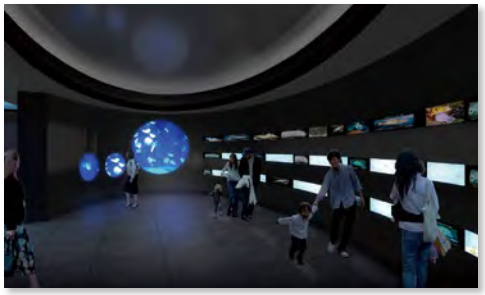
新足摺海洋館 SATOUMI

新足摺海洋館は、「水族館の展示と目の前の海やアクティビティが連動する水族館」をコンセプトに、2020年7月中旬にオープンします。竜串湾の生きものをメインに、約350種、15,000点の生物を展示予定です。

また、隣接する竜串ビジターセンターと連携し、展示から竜串湾や桜浜などの本物の自然を体感できるよう、地域の自然、体験、食を周遊させるクラスターの拠点となるよう努めていきます。

【足摺の海① ～海がもたらす恵み～】

地域の食文化と関わりの深いゴマサバ（清水さば）やメジカ（ヒラソウダ）などの飼育展示に挑戦していきます。他に、サメやエイも展示します。



【足摺の海② ～ウミウシ・クラゲコーナー～】

竜串湾のもう一つの主役生物ウミウシや、クラゲのなかまを展示します。ウミウシは、現在竜串湾で384種が認められており、カラフルで小さな、まさに海の宝石のような姿を展示しながら、生態研究にも力を入れていきます。

【ショップ・カフェ】

2階には、竜串湾が一望できるカフェとショップが併設されています。無料開放スペースとなり、誰でも利用可能です。ウッドデッキからは、写真映えする景色を撮影できます。

【新館の外観】

22020.1.8撮影。青色のロゴマークが映える新館。45年間営業してきた旧館の隣に、1.5倍の広さとなってオープン予定。目の前には絶景の竜串湾が広がる。

■ 編集をおえて

創立以来45年に渡り、「土佐の海と黒潮の魚たち」をメインテーマに運営し、300万人を超える方々に入館していただきました。この間、関係者や地域の方たちに支えられ、様々な企画展や体験プログラム等を行ってきました。そうした活動を次の世代に残していくとともに、2020年7月にオープンする新館にもその志を引き継ぎ、より良い展示や体験プログラム等の発展の礎とするものとし、記念誌を発刊しました。

編集に当たっては、開館以来、散逸が甚だしい古い資料や新聞記事の収集から始まり、高知新聞のアーカイブをもとに主なできごとをまとめていく作業が続けられました。決して明るいニュースばかりでなく、さまざまな困難を乗り越えてきた当館の底力のようなものを感じました。多くの方のお力添えなしでは成しえなかったことと思います。他にも、本誌のために一般募集した記念写真も掲載しております。旧館から新館へと形は変わっても、これまでと変わりなく地域のみなさまとともに新しい海洋館を作っていけましたら幸いです。

最後になりましたが、高知新聞様をはじめ、本誌制作にご協力をいただきました関係者のみなさまに、心より感謝申し上げます。特に、企画、編集にご助言、ご協力をいただいた(有)せいぶ印刷様、ありがとうございました。

記念誌編集委員
総務企画課・茂木みかほ

高知県立足摺海洋館45周年記念誌
45th Anniversary 地域とともに歩んだきずな

2020 年 2 月 20 日発行

発　　行　高知県立足摺海洋館
〒787-0452
高知県土佐清水市三崎字今芝 4032
TEL：0880-85-0635

編集・印刷　有限会社せいぶ印刷工房

高知県立

足摺海洋館

足摺宇和海国立公園・竜串